

令和5年度
近畿地方環境パートナーシップオフィス運営業務

業務実施報告書

令和6年3月26日

特定非営利活動法人 近畿環境市民活動相互支援センター

目次

1	はじめに	1
2	業務の目的	1
3	実施業務総括（業務計画書に対応）	2
(1)	業務実施計画書(案)の作成及び、きんき環境館アドバイザー委員会・近畿ESDセンター 企画運営委員会の設置・開催等【仕様書番号4-(1)、4-(2)、5-(1)、5-(2)】	2
(2)	Webサイトなどを活用した情報発信、PR、ESD活動に関する域内情報の収集・発信及びESD 活動に関する域内外への情報提供等【仕様書番号4-(3)-①、5-(3)、5-(6)-③】	3
(3)	相談対応、ESD活動に関する相談・支援窓口【仕様書番号4-(3)-②、5-(4)、5-(6)-②】	5
(4)	対話の場作り等【仕様書番号4-(3)-②、5-(4)】	6
(5)	全国事業に関わる業務、全国センターとの連携協力の推進等、地方EP0ネットワークとの 情報交換会、施設の維持・管理【仕様書番号4-(3)-③、4-(3)-④、⑤、5-(7)】	9
(6)	地域循環共生圏プラットフォーム事業の令和5年度環境整備団体伴走支援等【仕様書番号 4-(4)-①～⑥】	10
(7)	地域循環共生圏構築に向けた身近な自然資本の活用に関する意見交換会の開催【仕様書 番号4-(4)-⑦】	13
(8)	地域からのグリーン社会の実現に向けたステークホルダー連携促進事業【仕様書番号4- (4)-⑧】	15
(9)	業務を通じた情報提供や関係構築【仕様書番号4-(4)-⑨】	18
(10)	地域ESD活動支援センター運営業務	19
(11)	気候変動の視点も入れた学びあいプロジェクト、ノウハウの共有と推進に関する方策の検 討、報告、全国センターとの連携【仕様書番号5-(5)-①～③、5-(7)】	21
(12)	ESD推進ネットワーク地域フォーラムの開催【仕様書番号5-(6)-①】	25
(13)	KSP分科会その他事務所が開催する事業の支援・運営、その他の協働事業【仕様書番号6- (1)、(2)】	26
4	業務実施計画書	30

1 はじめに

特定非営利活動法人近畿環境市民活動相互支援センター（以下「エコネット近畿」という。）は、近畿地方環境事務所（以下、「近畿事務所」という。）との請負契約に基づき、近畿地方環境パートナーシップオフィス（以下「きんき環境館」という。）及び近畿地方ESD活動支援センター（以下、「近畿ESDセンター」という。）の運営業務を実施している。本報告書は、令和5年度業務実施計画に基づく令和5年度のきんき環境館及び近畿ESDセンター運営業務（令和5年4月1日（土）から令和6年3月22日（金）までの1年間）の事業内容を報告するものである。

2 業務の目的

近畿事務所では、近畿地方（滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県及び和歌山県）を対象に平成17年1月からきんき環境館を設置し運営してきたところである。

また、持続可能な社会の創り手を育成するESDの推進のため、文部科学省と環境省が共同で全国ESD活動支援センター（以下「全国センター」という。）と8つの地方ESD活動支援センター（以下「地方センター」という。）を設置し、第2期ESD国内実施計画に基づくESDの全国的な展開、支援体制の充実等を図るとともに、気候変動を切り口としたESDの取組も進めていくところである。

本業務は、きんき環境館が環境教育等促進法の規定する国の役割を果たすため、また地方センターが国内実施計画等を踏まえた役割を果たすため、全国8ブロックに設置されている環境パートナーシップオフィス（以下「EPO」という。）と地球環境パートナーシッププラザ（以下「GEOC」という。）のネットワーク（以下「EPOネットワーク」という。）を活用するとともに、近畿地方の事情を踏まえて各種事業等を企画し、それを実施することにより、市民、NPO/NGO、行政、企業等、社会を構成する様々な主体による協働・連携の取組を広げ、効果的・効率的に環境保全活動、多種多様な環境施策への協力及びESD活動等を活性化させることを目的とする。

また、「第5次環境基本計画」（平成30年4月閣議決定）において提唱された、環境・経済・社会の統合的向上を図る「地域循環共生圏」の考え方及び「地域課題を解決し、地域の魅力と質を向上させる地方創生に資する脱炭素」をキーメッセージとして発信している「地域脱炭素ロードマップ」（令和3年6月国・地方脱炭素実現会議決定）の考えに基づき、各地域が自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完し支え合う取組を推進し、持続可能な地域づくりを通じて、環境で地方を元気にしていくとともに、持続可能な社会を構築するための創造に取り組むことを目的とする。

3 実施業務総括（業務計画書に対応）

- (1) 業務実施計画書(案)の作成及び、きんき環境館アドバイザー委員会・近畿ESD センター企画運営委員会の設置・開催等【仕様書番号4-(1)、4-(2)、5-(1)、5-(2)】

業務目標	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な知見から計画や評価にアドバイスをいただき、きんき環境館・ESD センター共に成長していける状態を作る。 ・多様な委員の方々に参画いただくことで、知名度や求心力の向上を図る。 		
実施内容	業務実施計画書の作成		
	4「令和5年度 きんき環境館・近畿地方ESD活動支援センター業務計画」の通り業務実施計画書を作成した。		
	きんき環境館アドバイザー委員会		
	8/18	第1回 アドバイザー委員会開催	
	2/13	第2回 アドバイザー委員会開催	
	<アドバイザー委員会 名簿> 敬称略・五十音順		
	所属等	役職	氏名
	株式会社イマゴト	代表取締役	秋田 大介
	総合地球環境学研究所 研究基盤国際センター	教授	浅利 美鈴
	成安造形大学 未来社会デザイン共創機構	研究員 助教	田口 真太郎
社会福祉法人大阪ボランティア協会	常務理事／事務局長	永井 美佳	
同志社大学	名誉教授	新川 達郎	
Future Creation Lab. オブリガード	代表	森 伊知郎	
近畿ESDセンター企画運営委員会			
8/4	第1回 企画運営委員会		
2/8	第2回 企画運営委員会		
<企画運営委員会 名簿> 敬称略・五十音順			
所属等	役職	氏名	
公益財団法人吉野川紀の川源流物語	事務局長	尾上 忠大	
NPO法人とよなかESDネットワーク	事務局長	上村 有里	
公益財団法人淡海環境保全財団	キャリアアドバイザー	来田 博美	
特定非営利活動法人いけだエコスタッフ	理事長	庄田 佳保里	
(公財)京都市環境保全活動推進協会	環境教育推進室長	新堀 春輔	
奈良教育大学/ ESD・SDGsセンター	センター長	中澤 静男	
同志社大学	教授	中島 恵理	
奈良教育大学/日本 ESD 学会	名誉教授/初代会長	長友 恒人	
(株)総合水研究所		平井 研	
事業総括	成果	<p>NPO・市民団体、行政、企業、教育機関等、多様な主体のバックグラウンドに精通している委員に参画いただけたことで、重層的なアドバイスを得ることができ、計画策定及び評価・検証に活かすことができた。</p> <p>政策コミュニケーションにおいては、複数のアドバイザー委員が企画段階から関わり事業の実施・検証を行うことができ、企画に広がりを持たせることができた。ステークホルダー連携促進事業においては、委員のネットワークを活用して中間支援組織との連携事業を実施することができた。</p> <p>ESD事業については、学びあいプロジェクトや地域フォーラム、情報収集など事業全体を通して、委員の積極的な参画があった。結果として、学校現場における好事例の紹介のほか、多様なESD実践主体に対するイベント広報やイベント時のグループディスカッションにおける参加者同士の交流促進と学びの深化等につながった。</p>	
	課題	<p>請負業務の初年度ということもあり、年度当初の方向性の合意に時間を要し、業務実施計画書案の作成が予定より大幅に遅れた。それに伴い、アドバイザー委員会及び企画運営委員会の開催が8月になってしまい、計画に対する委員の意見の反映が十分とは言えなかった。</p>	

(2) Webサイトなどを活用した情報発信、PR、ESD活動に関する域内情報の収集・発信及びESD活動に関する域内外への情報提供等【仕様書番号4-(3)-①、5-(3)、5-(6)-③】

業務目標	<ul style="list-style-type: none"> ・きんき環境館／近畿ESDセンターのホームページで近畿圏の情報を積極的に発信することで各施設の認知度の向上を図る。 ・HP、YouTube、Facebook、メールマガジンなど情報発信媒体の違いを生かしたアプローチを行い、目的別に利用者に情報が届けられるようにしていく。 ・専門用語をなるべく使わないなど、表現を工夫し、環境に関心が薄い層へ普及啓発を行う。 ・新たなネットワークを開拓すべく、身近な話題提供として自然体験や暮らしに関する情報などの英語での発信を検討する。 		
実施内容	毎月第2、第4水曜	メールマガジン配信	
	随時	Facebook記事更新	
	随時	配信先管理および投稿原稿確認に係る作業等	
	随時	効果的な情報発信を行うためのメールでの聞き取り調査 1. メールマガジン投稿依頼者（11件）に①メールマガジンを知った経緯②メールマガジンへの期待③きんき環境館への期待の聞き取り 2. メールマガジン配信停止依頼者（13件）に配信停止の理由の聞き取り	
	随時	電話による各事業のメールマガジンへの掲載希望確認あわせて、Facebookでの配信希望確認	
	随時	近畿ESDセンターホームページに記事投稿	
		地域でESDを推進する拠点のニーズの把握	
	9/6	ESD 推進ネットひょうご神戸 【面談者】 近畿事務所、ESD センター（堀、小路） 【目 的】 ESD に関する取り組みについてのヒアリングおよび連携の余地の模索 【形 態】 対面 神戸大学鶴甲第2キャンパス（神戸市） 【内 容】 現在の活動についておうかがいしたほか、RCE としての今後の活動についてうかがった。活動を広げていくために企業とつながりを作っていくほか、来年度からさらに積極的に活動を行っていくとのことであった。	
	3/21	大阪教育大学 教授 【面談者】 近畿ESDセンター（岡見、小路） 【目 的】 ESDに関する取組についてのヒアリングおよび近畿ESDセンターの連携および情報収集先として想定されるネットワークや有識者に関する情報収集 【形 態】 対面 大阪教育大学柏原キャンパス（柏原市） 【内 容】 近畿圏における環境教育およびESDの研究者やプレイヤー、これまでの学術的な流れについてのヒアリング	

事業総括	成果	<p>Webアクセス数は、令和4年度275,611から325,823となり、50,212増加。メルマガ新規登録者数は、令和4年度235人から498人となり、263人多い結果となった。</p> <p>Facebook投稿数については、令和4年度68件から73件となり5件増加。加えて、昨年はメルマガの配信をお知らせする簡素な投稿が多かったが、今年度は、外部から依頼のあった情報や収集した情報を積極的に投稿した。</p> <p>YouTubeについて、令和4年度はきんき環境館のHPで一般公開した動画があったが、令和5年度は、すべての動画が限定公開だった。そのため、昨年度の622件に比べて、閲覧数は293件に留まった。</p> <p>(EPO業務の往訪での情報収集は19件、ESD業務の域内情報の収集は53件)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">項目</th> <th style="text-align: center;">件数</th> <th style="text-align: center;">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>きんき環境館Webアクセス数</td> <td style="text-align: center;">325,823</td> <td>年間閲覧数</td> </tr> <tr> <td>近畿ESDセンターWebアクセス数</td> <td style="text-align: center;">4,935</td> <td>年間閲覧</td> </tr> <tr> <td>メルマガ登録者数</td> <td style="text-align: center;">3,019</td> <td>最新登録者数</td> </tr> <tr> <td>メルマガ発行回数</td> <td style="text-align: center;">25</td> <td></td> </tr> <tr> <td>機関誌発行部数</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>メルマガへの投稿依頼数</td> <td style="text-align: center;">149</td> <td>令和4年度数値不明</td> </tr> <tr> <td>Facebookの投稿に対するいいね、共有の数</td> <td style="text-align: center;">94</td> <td></td> </tr> <tr> <td>YouTube閲覧数</td> <td style="text-align: center;">293</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">(令和6年3月22日現在)</p> <p>地域ESD拠点へのヒアリングでは、多様なセクターの状況やこれまでの流れについて俯瞰的な話を聞くことができ、今後の事業を進めるうえで前提となる情報が得られた。また、コロナ前後で教育関係者やESD実践者を取り巻く状況が大きく変化していることがわかった。</p> <p>ESDにおけるネットワーク関係者とつながったことで、近畿ESDセンターの情報収集力を高めることができた。</p>	項目	件数	備考	きんき環境館Webアクセス数	325,823	年間閲覧数	近畿ESDセンターWebアクセス数	4,935	年間閲覧	メルマガ登録者数	3,019	最新登録者数	メルマガ発行回数	25		機関誌発行部数	0		メルマガへの投稿依頼数	149	令和4年度数値不明	Facebookの投稿に対するいいね、共有の数	94		YouTube閲覧数	293	
	項目	件数	備考																										
きんき環境館Webアクセス数	325,823	年間閲覧数																											
近畿ESDセンターWebアクセス数	4,935	年間閲覧																											
メルマガ登録者数	3,019	最新登録者数																											
メルマガ発行回数	25																												
機関誌発行部数	0																												
メルマガへの投稿依頼数	149	令和4年度数値不明																											
Facebookの投稿に対するいいね、共有の数	94																												
YouTube閲覧数	293																												
課題	<p>情報発信媒体間の発信内容の差別化ができていないことから、きんき環境館Webサイトへのアクセスに集中して、他の媒体へのアクセス数が伸び悩んだ。媒体による想定される効果を再度見直し、発信内容を検討する必要がある。</p> <p>地域での積極的な情報収集と発信を心掛けたが、他の事業と併せてさらに効果的な情報収集・発信を検討したい。</p> <p>なお、近畿圏において、英語での情報発信に対するニーズが確認できなかったため、令和5年度については検討の結果、英語での情報発信は行わなかった。</p> <p>地域ESD拠点へのヒアリングでは、ESDに関する取組やニーズを追い、教育関係者にとって有益な事業を行うことができるよう、引き続きニーズ把握をはじめとする情報収集を行っていく。</p>																												

(3) 相談対応、ESD活動に関する相談・支援窓口【仕様書番号4-(3)-②、5-(4)、5-(6)-②】

業務目標	<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧な相談対応により、認知度と信頼度を上げる ・チームでの専門性の高い相談対応により、実践につながる、地域脱炭素やローカルSDGs達成に向けて取り組む主体の活動の促進 ・相談者との関係性を築くことで、取組み情報やニーズ・シーズが入りやすい状態にする 							
実施内容	■きんき環境館相談対応（令和6年3月22日時点）							
	属性	一般市民	NGO/NPO 市民団体	行政	企業	学校/ 専門家等	環境系 施設等	計
	件数	2	31	8	32	6	2	81
	■近畿ESDセンター相談対応（令和6年3月22日時点）							
	属性	NGO/NPO 市民団体 環境系施設	行政	企業	学校/ 専門家等	ESDセン ター/EPO	一般	計
件数	19	7	6	10	1	4	47	
事業総括	成果	<p>昨年度の相談件数31件（令和5年3月）から、128件に増加した。（令和6年3月22日時点）</p> <p>また、相談対応からイベント参加に繋がった事例や、行政との協働が生まれている事例など効果が表れている。例えば、4月に相談のあったA社においては、本業でペット用品を扱っており、外来種等生物多様に関する啓発を学校等で行いたいという相談があった。対応として、本社所在地近くの自治体を紹介したことにより、啓発イベントへの出展や学校での授業の実施などの実績が生まれたことが確認できた。また、5月に相談のあったB社においては、木にまつわる文化等を調査し、それらを活かした地域再生を行っている企業が飛び込みできんき環境館を訪れた際に情報交換を行った結果、メルマガの登録やイベントへの複数回参加、事業内容の相談（信用金庫の紹介）などにつながった。</p> <p>このように、それぞれの相談に丁寧に対応した結果、1回の相談で関係性が途切れることなく深まっており、相談者からの信頼度が向上していることがわかる。また、自治体や金融機関等とつなぐことで、相談者の活動の促進につながることも確認できた。</p>						
	課題	<p>相談対応からその後の取組の進展、新たな取組や協働取組への発展が生まれた事例を数として正確に追うことができていないため、成果指標とした「相談対応の活動への反映と効果事例数」について正確に把握することができなかった。</p> <p>また、相談対応後のより丁寧なフォローアップの方法について検討の必要があるが、相談件数の増加に伴い丁寧なフォローアップを行うことと業務負担のバランスも検討する必要がある。</p>						

(4) 対話の場作り等【仕様書番号4-(3)-②、5-(4)】

マルチセクターボード

※業務実施計画書作成時点では、マルチセクターミーティングと記載。事業実施に際して名称を変更した。

業務目標	・地域ニーズと課題を把握することで、効果的な支援方法を検討していく	
実施内容	マルチセクターボードEPO①	
	2/14	<p><主催開催>マルチセクターボードEPO① 【参加者】8名 (有) ウッズ、大阪府森林組合、大阪市漁業協同組合、けいはんな記念公園管理事務所、京都産業大学、兵庫県人と自然の博物館、滋賀県立大学、近畿事務所、きんき環境館 (岡見、具志堅、小山) 【形態】対面 きんき環境館 【内容】活動・研究内容や課題の共有、きんき環境館への期待などについて議論した。</p>
	マルチセクターボードEPO②	
	1/31	<p><主催開催>マルチセクターボードEPO② 【参加者】8名 コープ自然派、せせらぎの郷 (自然再生活動団体)、大阪ぐりぐりマルシェ、阪急阪神百貨店、食と農の未来をつくるネットワーク、さんだオーガニックアクション、武庫川渡船、(株) RE-SOCIAL、近畿事務所、きんき環境館 (岡見、具志堅) 【形態】対面 きんき環境館 【内容】活動・研究内容や課題の共有、きんき環境館への期待などを議論した。</p>
	マルチセクターボードESD①	
	10/25	<p><主催開催>マルチセクターボードESD①-1 【参加者】5名 エコ〜ど京大2名、近畿大学生物理工学部 教養・基礎教育部門、一般社団法人エディブル・スクールヤード・ジャパン、ネスレ日本株式会社、近畿ESDセンター (正阿彌、堀) 【形態】対面 きんき環境館 【内容】ESDに関係する活動をしている団体、研究者、企業、それぞれの活動内容や研究内容、課題、現在感じていることを発表後、団体同士の交流、センターへの期待などを議論した。</p>
	10/30	<p><主催開催>マルチセクターボードESD①-2 【参加者】4名 滋賀グローバルネット・国際理解研究会みなみの風、森のようちえんウィズ・ナチュラ、GPSランナー、大阪ガスネットワーク、近畿ESDセンター (正阿彌、堀、小路) 【形態】対面 きんき環境館 【内容】ESDに関係する活動をしている団体、企業、それぞれの活動内容や研究内容、課題、現在感じていることを発表後、団体同士の交流、センターへの期待などを議論した。</p>
マルチセクターボードESD②		
3/4	<p><主催開催>マルチセクターボード② 【参加者】6名 ウータン・森と生活を考える会、あおぞら財団、一般財団法人アジア・太平洋人権情報センター、関西セミナーハウス活動センター開発教育研究会、NPO法人グローバル人材開発センター、NPO法人Gift、近畿ESDセンター (岡見、堀、小路) 【形態】対面 きんき環境館 【内容】各参加者より活動内容を紹介いただいたのち、活動する中で課題に感じていることを共有する中で課題解決の糸口や近畿ESDセンターに対する要望などについて議論した。</p>	

	左： 1/31 EPO② 右： 3月 ESD②		
事業総括	成果	<p>多種多様な分野の関係者を招いたことで、きんき環境館、近畿ESDセンターを認知いただくことができた。また、EPO①で自然資本の維持管理を担う人材の不足などの地域や業界の課題、EPO②で環境活動のマイナスイメージを変えていく百貨店での取組み、ESD①で奈良県にて自然保育認証制度が創設されたなどのトレンド情報を得ることができた。各回を通して多様主体とのネットワーク構築のきっかけとすることができた。</p> <p>また、EPO①では、人材の育成と適切な配置が重要であるという意見が出され、自然体験学習などの環境教育についても長期の視点で捉えた際には、重要な人材育成につながっており、人材育成という視点から自然体験学習に取り組む人たちをつなぐことの重要性が整理された。また、育成された人材とその受け皿（就職先等）となる組織（自治体、企業、団体等）の情報を集約し人材の実装につなぐ必要性も共有された。結果として、自然体験学習などの環境教育に取り組む主体間をつなぐこと、育成された人材と受け皿の情報を集約しつつなぐことなどがきんき環境館に求められている機能の一つだということが参加者の声から確認できた。</p> <p>特にESD①②では、SDGsのような抽象的な概念が具体や本質を伴わず学習者に伝わってしまっているという課題感が共有された。また、分野間の情報共有の場が十分でない上に、プレイヤーの高齢化も伴って分野のたこつば化がより進行していることが問題提起された。そうした課題に対して、ネットワーク構築や情報交換の場づくりが求められていることが明らかになった。</p>	
	課題	<p>EPO①以外は自己紹介及び団体紹介の時間が長くなり、参加者同士の意見交換及びきんき環境館、ESDセンターに期待する役割についての議論まで深めることができず、地域ニーズと課題を把握することが十分にできなかった。今後も数年間をかけた同様のメンバーによる意見交換の場を重ねて関係性を構築し、効果的な支援方法を検討する必要がある。</p> <p>また、ESDに関しては、上記成果に記載したそれぞれの課題に対し、ESD実践者の情報収集を進め、相談対応で適切な人物を紹介できるように機能向上が求められるほか、分野、世代間の交流につながるようなネットワーキングを、ESD地域フォーラムのような開かれた場で企画することが求められる。</p>	

政策コミュニケーション

業務目標	・地域循環共生圏に向けた市民の政策コミュニケーション力向上を目指し、コミュニケーションの場を作るノウハウやスキルを整理する	
実施内容	政策コミュニケーション①	
	9/1	<p><主催開催>政策コミュニケーション① 気候市民会議の多様な開催を考えるWS 【参加者】 45名、大阪大学C0デザインセンター、近畿事務所、きんき環境館 【形態】 対面 大阪大学中之島センター（大阪市） 【内容】 （趣旨説明と開催の挨拶）大阪大学 八木絵香氏／環境省 近畿事務所 （話題提供1）気候市民会議とは何か 北海道大学 高等教育推進機構 三上直之氏 （話題提供2）気候市民会議さっぽろ2020の事例について 札幌市 環境局環境都市推進部環境政策課 環境政策担当係長 佐竹輝洋氏 （話題提供3）あつぎ気候市民会議の事例について あつぎ気候市民会議 実行委員会 事務局長 遠藤睦子氏 （話題提供者による鼎談と、フロアとの質疑応答） （気候市民会議の多様な開催を考えるワークショップ）</p>





実施内容	11/2	<p>政策コミュニケーション②</p> <p><主催開催>政策コミュニケーション② 地域課題の政策化をテーマとした「行政・議員・市民との対話の場」プラスチックの資源循環編</p> <p>【参加者】32名、近畿事務所、きんき環境館、社会福祉法人 大阪ボランティア協会、あどぼ・していずんプロジェクト（あどぼの学校）</p> <p>【形態】対面 於：大阪府立男女共同参画・青少年センター（大阪市）</p> <p>【内容】</p> <p>（基調講演）地域課題を政策にする意義と政策コミュニケーション 同志社大学経済学部経済学研究科 公共経済学 原田禎夫氏</p> <p>（トークセッション）プラスチックの資源循環におけるポイントと課題 同志社大学経済学部経済学研究科 公共経済学 原田禎夫氏 一般社団法人エコビジネス推進協会 専務理事 藤本和富氏 一般社団法人加太・友ヶ島環境戦略研究会 環境教育部ディレクター 平井研氏</p> <p>（ワークショップ）地域課題を政策にするには～プラスチック資源循環編～</p>
事業総括	成果	<p>多様なセクターが集まり、環境問題の政策化をテーマに交流する機会を設けることができた。アンケートでは、「多様な年代、属性の人が集まって話せるのが良い」「政策に関して話し合う場をもっと広めたい」という意見があり、政策コミュニケーションに対する意欲の向上が見られた。</p>
	課題	<p>属性ごとで異なる認識を確認することに時間がかかった。政策化の手法の情報交換にとどまり、政策コミュニケーションの場をつくるノウハウやスキルを整理することまでは至らなかった。ワークショップの形式やテーマを変えて、様々なコミュニケーションの場を試しながら、ノウハウやスキルを得る必要がある。</p>

(5) 全国事業に関わる業務、全国センターとの連携協力の推進等、地方EPOネットワークとの情報交換会、施設の維持・管理【仕様書番号4-(3)-③、4-(3)-④、⑤、5-(7)】

業務目標	全国ネットワークでの情報交換で得た知見を活かし、地域で活動に取り組む団体や市民への支援を効果的に行っていく	
実施内容	全国事業に関わる業務/地方EPOネットワークとの情報交換会	
	5/30	<p><会議参加>全国EPO連絡会</p> <p>【参加者】GEOC、各地方EPOスタッフ、各地方環境事務所、環境省本省</p> <p>【形態】対面 ふれあい貸し会議室（渋谷区）＋オンライン</p> <p>【内容】各EPOの今年度事業の方向性の報告</p>
	5/31	<p><会議参加>第1回ESD活動支援センター（全国・地方）連絡会</p> <p>※（11）を参照</p>
	10/18-19	<p><会議参加>第2回全国EPO連絡会</p> <p>【参加者】GEOC、各地方EPOスタッフ、各地方環境事務所、環境省本省、</p> <p>【形態】対面 オホーツク・文化交流センター（北海道網走）＋オンライン</p> <p>【内容】GEOC及び全国EPOの情報共有、次年度以降の施策に向けた意見交換など</p>
	12/22	<p><会議参加>地方EPOネットワークとの情報交換会</p> <p>【参加者】GEOC、各地方EPOスタッフ</p> <p>【形態】オンライン</p> <p>【内容】30by30やサーキュラー・エコノミーなど現在進められている環境政策の課題解決のため、これからEPOが果たすべき機能についての意見交換</p>
	1/23-24	<p><会議参加>第3回全国EPO連絡会</p> <p>【参加者】GEOC、各地方EPOスタッフ、各地方環境事務所、環境省本省、</p> <p>【形態】対面 地球環境パートナーシッププラザ＋オンライン</p> <p>【内容】GEOC及び全国EPOの情報共有、次年度以降の施策に向けた意見交換など</p>
	1/24	<p><会議参加>第2回ESD活動支援センター（全国・地方）連絡会</p> <p>※（11）を参照</p>
	施設の維持・管理	
	随時	外部団体からのチラシ、リーフレット、報告書、ポスター等の受け取り、配架
	随時	期限切れのチラシの処分
随時	10年以上前の団体等の活動報告書や冊子を処分	
随時	きんき環境館に関するパンフレットセットを作り、来館者には説明と共に配布	
	<p>●きんき環境館の開館状況</p> <p>年間開館日数：237日</p> <p>年間延べ来場者数：165人（3月22日時点）</p> <p>●提供サービスの状況</p> <p>-図書資料などの提供</p> <p>年間提供実績：0回</p> <p>追加収集した図書資料等：6件</p>	
事業総括	成果	EPO連絡会等において地方EPO及びGEOCと密な情報交換ができたことにより、EPOネットワークの情報網に円滑にアクセスできるようになった。これまでEPOネットワークとして長年蓄積された中間支援のノウハウや情報を知ることで、近畿におけるEPOのあり方を検討することができた。
	課題	相談業務や地域循環共生圏における支援業務において、EPOネットワークから得た情報を活かす場面は令和5年度についてはそこまで多くなかったが、これから更に活用を進めたい。

(6) 地域循環共生圏プラットフォーム事業の令和5年度環境整備団体伴走支援等
【仕様書番号4-(4)-①～⑥】

業務目標	<ul style="list-style-type: none"> ・伴走支援団体がゴールに近づくよう支援をおこなう ・「きんき環境館」が近畿圏のパートナーシップオフィスであり、いつでも「支援を得られる」頼れる存在であることを認識してもらう（きんき環境館（EPO）の認知度向上） 	
実施内容	地域プラットフォームの環境整備支援等業務、中間共有会、ステークホルダーミーティング	
	5/2	<p><出張> エネシフ湖北ヒアリング（滋賀県長浜市） 【参加者】 エネシフ湖北、長浜市、近畿事務所、きんき環境館 【形態】 対面（株式会社バイオマスアグリケーション） 【内容】 環境整備計画について確認、現地視察</p>
	6/1	<p><会議>キックオフ共有資料について ■5月定例会議（オンライン）</p>
	6/15	<p><会議>中間共有会について ■6月定例会議（オンライン）</p>
	8/9	<p><会議>Webサイト構築とエネシフ湖北の将来像について（オンライン） ■7月定例会議</p>
	8/29	<p><会議>目標・成果・取り組みの進捗確認（オンライン） ■8月定例会議</p>
	10/7	<p><会議>曼荼羅作成、ステークホルダーミーティング実施について ■9月定例会議</p>
	9/29	<p><開催>エネシフ湖北中間共有会「全国地域エネルギーサミットinながはま」 【参加者】 230名（登壇者含む）、GEOC、環境省本省、全国事務局、近畿事務所きんき環境館 【形態】 対面 北ビワコホテルグラツィエ（滋賀県長浜市） 【内容】 （午前の部）主濃会議 先進地域の関係者 （午後1部）主催者・来賓挨拶 長浜市長／湖北環境経済協議会長／環境省 取組紹介 エネシフ湖北／岩手県紫波町／（株）エネファント パネルディスカッション （午後2部）ワールドカフェ／ながはま議定書採択</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>
	10/19	<p><会議>中間共有会振り返り（オンライン） ■10月定例会議</p>
	11/30	<p><会議>ミートアップ第4回、行政等の巻き込みについて（オンライン） ■11月定例会議</p>
	12/6	<p><会議>ステークホルダーミーティングのすり合わせ（オンライン） ■12月定例会議</p>
	1/24	<p><会議>予算執行状況、成果物の様式確認（オンライン） ■1月定例会議</p>
	2/14	<p><会議>成果物の内容確認（オンライン） ■2月定例会議</p>
	3/13	<p><会議>ステークホルダーミーティングの進行等確認（オンライン） ■3月定例会議</p>

実施内容	3/20	<p><会議参加>エネシフ湖北／灯台もとテラスステークホルダーミーティング 【参加者】 20名、エネシフ湖北、近畿事務所、きんき環境館（岡見、具志堅） 【形態】 対面 えきまちテラス長浜 【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 自己紹介 ② エネシフ湖北／灯台もとテラスの紹介、R5地域循環共生圏PF事業における主な取り組み ③ 長浜市における脱炭素の取り組み、これまでとこれから ④ 3つ（事業、部活、機能）のタネ紹介と、参加者の「やってみたいこと」を書き出すワークショップ 	 
	GEOC が主催する会議等への参加		
	5/16	<p><会議参加> 第1回EPO共有会 【形態】 オンライン 【内容】 各EPOの支援計画の共有</p>	
	6/7,8	<p><会議参加>全国キックオフミーティング 【形態】 オンライン 【内容】 各団体の活動計画を発表・共有し、団体間の交流を図った。受け持ち団体の交流の場においてファシリテーションを行った</p>	
	9/11	<p><会議参加>第1回作業部会 【形態】 対面 地球環境パートナーシッププラザ（渋谷区） 【内容】 各EPOの環境整備支援の現状共有及びアクションサイクル・モデルのブラッシュアップ</p>	
	9/15	<p><出席>「環境パートナーシップ」の国際枠組み勉強会 【形態】 オンライン 【内容】 環境パートナーシップに関する国際的な枠組み（オーフス条約、エスカス協定など）についての解説</p>	
	12/8	<p><会議参加>事業形成会議 【形態】 対面 地球環境パートナーシッププラザ（渋谷区）＋オンライン 【内容】 令和6年度地域循環共生圏プラットフォーム事業案のブラッシュアップ等</p>	
	2/9	<p><会議参加>第2回作業部会 【形態】 対面 地球環境パートナーシッププラザ（渋谷区）＋オンライン 【内容】 各EPOの環境整備支援の現状共有及び中間支援ポイント抽出</p>	
	3/7,8	<p><会議参加>環境整備団体成果共有会 【形態】 対面 TKP 新橋カンファレンスセンター（港区） 【内容】 各団体の活動成果の発表・共有及び、団体間交流。受け持ち団体の交流の場においてファシリテーションを行った。</p>	

実施内容	事業化支援団体の活動の情報共有	
	4/11	<出張>新規事業化支援団体・箕川町（滋賀県東近江市）へのヒアリングに随行
	4/12	<出張>新規事業化支援団体・多賀町へのヒアリング※オンライン参加
	7/31	<会議>第4回箕川未来協議会事業化支援会議への出席による情報共有 ※オンライン
	10/27	<会議>事業化に取り組む活動団体 意見交換会（第1回）への出席による情報共有
	3/8	<会議>事業化支援団体成果共有会
	卒業団体のフォローアップ調査	
	1/10	<ヒアリング>みなべ・田辺地域世界農業遺産推進協議会（令和元年度取組団体） 【参加者】みなべ町うめ課（協議会事務局）、環境省本省、GEOC 【形態】オンライン 【内容】令和元年度に取り組んだ事業の現在の状況や、現在の課題、今後の展望
	2/2	<会議参加>卒業団体フォローアップ調査 個別ヒアリング 【参加者】サソテナやお、環境省本省、GEOC、近畿事務所、きんき環境館（具志堅） 【形態】オンライン 【内容】地域循環共生圏プラットフォーム事業の事業支援団体採択時（令和4年度）及び現在の取組みについてヒアリング
	事業総括	成果
課題		伴走支援先が1団体だったため毎月現場の取組に同席するなど手厚い対応ができたが、支援先や卒業団体、個別相談対応なども増えていくことが良そうされる中、同じ対応を続けることには課題がある。伴走支援、中間支援の知見、技術を蓄積し、的確な打ち手による高い信頼を得られるようになる必要がある。

(7) 地域循環共生圏構築に向けた身近な自然資本の活用に関する意見交換会の開催
【仕様書番号4-(4)-⑦】


業務目標	<ul style="list-style-type: none"> 多様なパートナーシップでの身近な自然資本の活用による地域づくりを進めている、ステークホルダー間の交流の場をつくる。 各ステークホルダーが、先進事例紹介や意見交換により新しい情報を得ることで、身近な自然資本の活用に関する取り組みが持続可能となるきっかけとする。 	
実施内容	11/16	<p><主催開催>KSP「ローカルSDGs・脱炭素分科会」スピノフイベント 身近な自然資本を地域づくりにどう活かすか？第1回自然資本を活かした新しい地域づくり・まちづくりを考える～パートナーシップの多様性を学ぶ～対話編</p> <p>【参加者】21名、近畿事務所、きんき環境館 【形態】対面 QUINTBRIDGE (大阪市) 【内容】 (開催の挨拶) 環境省 近畿事務所 (基調講演) 身近な自然資本を地域づくりにどう活かすか？ 多様なパートナーシップによる地域づくりの意義 公益財団法人 日本自然保護協会 高川 晋一氏 (事例紹介1) 奥びわ湖・山門水源の森の保全活動と地域企業との連携 山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会 副会長 村田 良文氏 (事例紹介2) 企業活動と生物多様性保全について 御菓子司 津村屋 店主 角村 茂氏 (事例紹介3) パートナーシップによる生物多様性の価値創造 パークマネジメント甲山 所長 川端 美緒氏 (ネットワーキング)</p> 
	11/27	<p><主催開催>KSP「ローカルSDGs・脱炭素分科会」スピノフイベント 身近な自然資本を地域づくりにどう活かすか？第2回自然資本を活かした新しい地域づくり・まちづくりを考える～パートナーシップの多様性を学ぶ～現地編</p> <p>【参加者】10名、近畿事務所、きんき環境館 【形態】対面 甲山森林公園 (西宮市) 【内容】(現地案内) 甲山森林公園 パークマネジメント甲山 所長 川端 美緒氏 (ネットワーキング)</p> 



事業総括	成果	少人数でネットワーキングの場を作ることにより、参加者が互いに深くコミュニケーションをとることができ、アンケートで「良い内容だ」との回答が85%（第1回）、100%（第2回）など、満足度の高い意見交換会となった。また、パートナーシップにおける工夫を事例紹介等で学んだ上で、多様なセクター間のコミュニケーションを促すことで、参加者自身の地域づくりに活かすきっかけとすることができた。
	課題	自然資本の活用にかかるステークホルダーは、地域を越えた連携をとることが難しいため、本会による人的ネットワークを参加者自身の地域づくりに活かすことは難しいことから、近畿圏全体を対象とした大阪市内での開催ではなく、府県や地域レベルでの現地開催も検討したい。

(8) 地域からのグリーン社会の実現に向けたステークホルダー連携促進事業

【仕様書番号4-(4)-⑧】

業務目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域におけるグリーン社会の実現に向けた取り組みを進めている、ステークホルダー間の交流の場をつくる。 ・各ステークホルダーが、先進事例紹介や意見交換により新しい情報を得ることで、グリーン社会の実現に関する取り組みが発展するきっかけとする。 	
実施内容	11/9	<p><主催開催>KSP「ローカルSDGs・脱炭素分科会」第3回イベント（グリーン社会①）</p> <p>社会・地域課題をビジネスで解決！～若手社会起業家たちと共に描く未来～</p> <p>【参加者】67名（対面60名＋オンライン7名）、近畿事務所、きんき環境館（正阿彌、岡見、寺岡、小路、小山、山下（会場参加））</p> <p>【形態】対面（QUINTBRIDGE）＋オンライン</p> <p>【場所】QUINTBRIDGE（大阪市）</p> <p>【内容】</p> <p>（開会挨拶）環境省 近畿事務所、経済産業省経済産業局、大阪を変える100人会議</p> <p>（第一部）インプットトーク</p> <p>「コングラントが実践してきたプラットフォームビジネスと資金調達法」 佐藤 正隆 氏</p> <p>「森と人をつなぐ、地域の木材でつくるきぐみのつみきKUMINOの実践」 井上 慎也 氏</p> <p>「14歳から走り続けた私が今思う「ソーシャルビジネス」」川口 加奈 氏</p> <p>（第二部）20～30代の社会起業家やそれを応援する機関によるピッチトーク</p> <p>1 from clothes／2 株式会社Lentree／3 株式会社Famlic／ 4 株式会社ブイクック／5 株式会社COOON／6 大阪シティ信用金庫</p> <p>（第三部）ネットワーキング</p> <p>【主催】環境省近畿事務所</p> <p>【協働運営】きんき環境館</p> <p>【協力】近畿経済産業局、近畿財務局、大阪を変える100人会議、（一社）シェアリングエコノミー協会、大阪シティ信用金庫</p>
		

	12/22	<p><主催開催>グリーン社会② 気候市民会議の多様な開催を考えるWS 【参加者】 53名、大阪大学COデザインセンター、近畿事務所、きんき環境館（正阿彌、寺岡） 【形態】 対面 大阪大学中之島センター（大阪市） 【内容】 ①（趣旨説明と開催挨拶）大阪大学 八木絵香氏／近畿事務所 ②（持続可能なまちづくりや地域づくりについて学ぶことができるカードゲーム型プログラムの体験）「脱炭素まちづくりカレッジ」 ・ファシリテーター①森 雅貴氏（特定非営利活動法人イシュープラスデザイン フェロー） ・ファシリテーター②秋田 大介氏（株式会社イマゴト代表取締役） ③（ワークショップ）気候市民会議の多様な開催を考えるWS その2 ②の体験をもとに、自分たちの職場やコミュニティでできる脱炭素社会に向けた話し合いの方法などについて意見交換を行った（ネットワーキング）</p> 
実施内容	3/28 (予定)	<p><主催開催>市民活動と産官学共創～持続可能なグリーン社会の実現（グリーン社会④） 【形態】 対面 ウィズあかし（明石市） 【内容】 明石市を含む東播磨3市2町における市民活動の中間支援組織、自治体及び地域企業の情報交換。講演、パネルディスカッション、事例紹介、ネットワーキング 1. 講演「持続可能な地域づくりに向けた産官学共創の必要性」 田端 和彦氏（兵庫大学副学長） 2. 事例紹介 ①市民活動がつなぐ、産官学共創による大阪湾藻場再生 岩井 克巳氏（チーム☆ガサ） ②企業が取り組む地域貢献・地域交流活動 藤本 恵弘氏（ハリマ化成グループ（株） 上席執行役員） ③中間支援組織がつなぐ産官学共創の地域づくり 柏木 輝恵氏（NPO 法人シミズシーズ事務局長） 3. パネルディスカッション 「東播磨における市民活動と産官学共創のこれから」 丸谷 聡子氏（明石市長）、藤本 恵弘氏、森 逸男氏（エコウィングあかし副代表、柏木 輝恵氏 コーディネーター：田端 和彦氏 4. 情報交換・交流タイム 【主催】 きんき環境館 【共催】 近畿地方環境事務所、一般財団法人明石コミュニティ創造協会、NPO法人シミズシーズ 【協力】 明石市</p>

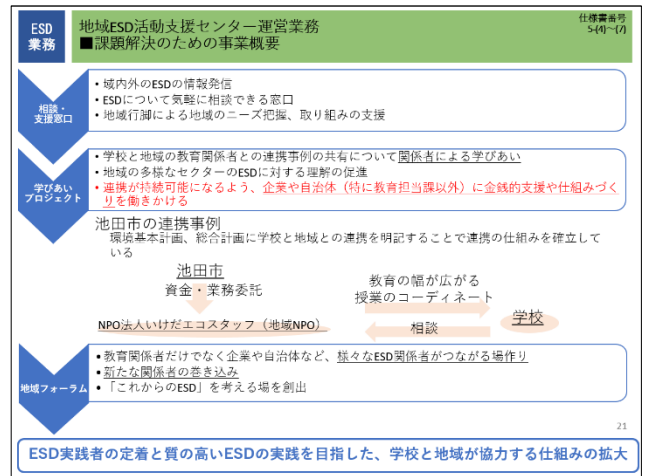
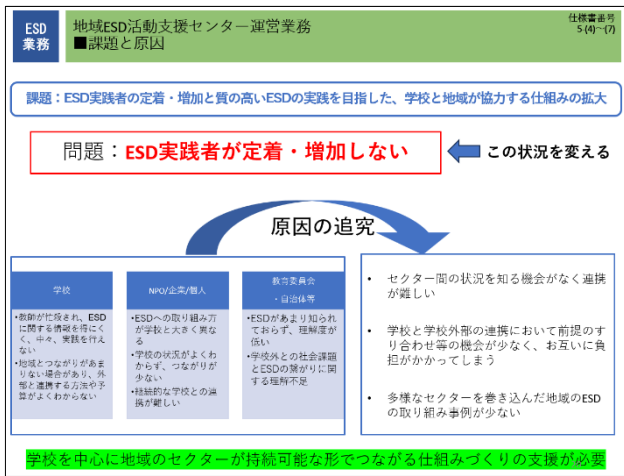
実施内容	3/12	<p><主催開催>KSPローカルSDGs・脱炭素分科会 第4回イベントの開催（グリーン社会④）</p> <p>「大学×〇〇」～大学との協働・連携による新しい地域の活性化と課題解決の仕組み～</p> <p>【参加者】69名（対面39名＋オンライン30名）、近畿事務所、きんき環境館（岡見、寺岡、小山、山下（会場参加））</p> <p>【形態】対面（事業構想大学院大学）＋オンライン</p> <p>【場所】事業構想大学院大学（大阪市）</p> <p>【内容】（開会挨拶） 環境省 近畿事務所 事業構想大学院大学 大阪校事務局 （第一部）ガイダンストーク&トークセッション 【龍谷大学の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演①「龍谷大学の取組」的場 信敬 氏 ・講演②「洲本市での実践内容について」櫻井 あかね 氏 ・講演③「多様な連携によるまちづくり」高橋 壺 氏 ・トークセッション① <p>【事業構想大学院大学の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演④「事業構想大学院大学の取組」大川 雄平 氏 ・講演⑤「企業から見た本事業について」石原 健一朗 氏 ・講演⑥「太子町の概要」小泉 大吾 氏 ・トークセッション② <p>（第二部）関西SDGsプラットフォーム（KSP）と大学分科会について 「KSP/KSP 分科会/大学分科会について」田和 正裕 氏</p> <p>（第三部）グループディスカッション・ネットワーキング</p> <p>【主催】環境省近畿事務所 【共催】学校法人 先端教育機構 事業構想大学院大学 【協働運営】きんき環境館 【協力】近畿経済産業局、近畿財務局</p>
		 
事業総括	成果	<p>市民、産業、行政、大学等、様々なステークホルダーを集めた会の開催により、今までにない交流の場をつくることができた。</p> <p>グリーン社会①では、社会・地域課題に取り組む若手起業家がピッチ登壇をしたことにより、同様にピッチ登壇した金融機関や先輩起業家とのつながりが生まれ、その後、商談にまで結びついたという実績を確認している。グリーン社会②では、具体的なアクションを起こしたいという意見をイベント終了後に6者から確認することができた。そのうち行政が実施を検討した事例については、既に実現にまで至った。グリーン社会④においても、大学との連携を進めたいと考えている行政職員が先進事例である洲本市や太子町の事例を積極的に質問し深めており、その後も相談したいという要望を確認することができた。</p> <p>このように、本事業を通して、グリーン社会の実現に関する取り組みが発展するきっかけとなった。</p>
	課題	<p>引き続き異なる形で参加者と関わることで、連携や事業の創出などに繋げたい。また、同様の交流の場は地域やテーマを変えて続けていきたい。</p>

(9) 業務を通じた情報提供や関係構築【仕様書番号4-(4)-⑨】

業務目標	担い手と支援者の情報収集と関係性の構築（人財データベースの構築）																
実施内容	関係団体のネットワークを量的な「広がり」と質的な「深まり」に集約しスタッフ間で情報を共有化することで現場とコーディネーターに関する情報を一元管理し、有効に活用する。集約する際の分類として、ネットワークレベル（Lv）を以下のように定義した。																
	<p>ネットワークレベル（Lv）</p> <p>Lv1 イベントなどを通じて開拓、交流し現場/コーディネーターをリスト化している ※令和5年度にきんき環境館職員と名刺交換した方、イベント参加した方等の人数</p> <p>Lv2 メールマガジンなどを通じて定期的な情報交換を行っている ※メールマガジン配信数</p> <p>Lv3 定期的なコミュニケーションなどを通じて担当者間の人間関係が形成されている 例) 初期の伴走団体、卒業団体、地域の顔となっているコーディネーターなど</p> <p>Lv4 伴走支援、団体取材などを通じて組織の内容、得意分野などについて共有している 例) 成長期、自走期の伴走団体、など</p> <p>Lv5 「みんなのきんき環境館フォーラム（仮）」などの協働開催を通じて密な関係性が出来ている</p> <p>結果、以下の通り集約することができた。</p>																
<table border="1" data-bbox="384 1115 1468 1256"> <thead> <tr> <th>ネットワークレベル（Lv）</th> <th>Lv1</th> <th>Lv2</th> <th>Lv3</th> <th>Lv4</th> <th>Lv5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>1,347</td> <td>2,943</td> <td>230</td> <td>80</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	ネットワークレベル（Lv）	Lv1	Lv2	Lv3	Lv4	Lv5	人数	1,347	2,943	230	80	—					
ネットワークレベル（Lv）	Lv1	Lv2	Lv3	Lv4	Lv5												
人数	1,347	2,943	230	80	—												
事業総括	成果	年間を通して1,347人（Lv1の数値）の方と関係性を構築することができた。（年目標200人）Lv3以上の定期的なコミュニケーションが取れる方については、230名に増加した。 地域循環共生圏事業や近畿ESDセンター業務を通して、地域に複数回往訪し、コーディネーター機能を有する個人や組織から話を聞き、関係を深めることで、きんき環境館及び近畿ESDセンターの認知度の向上にもつながった。 また、これまであまりネットワークを広げることができていなかった和歌山県（又は和歌山県域）については、「(4)-⑥卒業団体のフォローアップ調査」に関連し、事前の往訪、ヒアリングを通して関係構築を図った。															
	課題	多くのイベント実施を通して、多様な主体との関係構築を図れたが、新たな取組の創出や協働取組への発展などの効果を確認するには至らなかった。関係構築から、具体的な変容につながる事が確認できるような事業の組み立て、丁寧なフォローアップの検討が必要となる。 また、ネットワーク構築ができた地域が、きんき環境館の所在地である大阪府（大阪市）に偏ったことから、広域に広げるための工夫が必要となる。															

(10) 地域ESD活動支援センター運営業務

令和5年度は、近畿ESDセンターとして、ESD実践者が定着・増加しないことに問題意識を持ち、課題を「ESD実践者の定着・増加と質の高いESDの実践を目指した、学校と地域が協力する仕組みの拡大」と設定し事業を実施した。（別添1）「令和5年度 きんき環境館・近畿地方ESD活動支援センター業務計画」20p、21pを参照）



事業総括 **成果**

まず、近畿における多様なESDの実践事例、実情を知るために、企画運営委員会をはじめとする有識者のネットワークを活用しながら、学校や社会教育拠点等の実践現場を訪れ情報収集を行った。学校と地域が協力する仕組みを拡大していくために、どのような方法が考えられるかを整理しながら、情報収集を実施した。その過程において、実践現場の担当者との顔が見えるつながりをつくることができた。

学びあいプロジェクトでは、学校と地域が連携してESDを進めている具体的な事例から、学校と地域が連携するために押さえるべきポイントを伝えることができた。（学校におけるカリキュラムの作り方や年間の動き等）また、参加者の対話から、セクター間連携を進めるにも、互いに他セクターの状況を知る機会が少なく、連携の機会を逃していることがわかった。こうした課題に対し、学校内外のそれぞれの共通言語や事情を理解しコミュニケーション・調整ができる地域コーディネーターの必要性が確認された。学びあいプロジェクトを通して、学校と地域の連携についての期待値が高まり、多様なESD実践者が生まれる機運が高まったと考える。

地域フォーラムでは、近畿各地域の多様な主体による事例の発信により、多様な参加者が集うことができた。多様なセクターの事例紹介を行うことで参加者の視野を広げることにつながった。また、参加者ネットワークでは教職員をはじめ学校内外の様々な教育関係者がつながり合うことができた。

気候変動教育を進めるにあたり、令和5年度の成果及び令和6年度の方向性の案を可視化マトリクスにまとめた。



ESDネットワーク×気候変動教育の進捗の可視化マトリクス様式

プロジェクト・センター名	Focus 1 学習者の変容	Focus 2 教育者・実践者・組織の変容	Focus 3 ネットワークの変容	Focus 4 仕組みの変容	Focus 5 社会的インパクト (めざしたい状態)
学校	気候変動教育の広がりに向けた地域連携事例の学び合い	気候変動教育の広がりに向けた地域連携事例の学び合い	連携をスムーズにするためのセクターごとの学び合い	連携をスムーズにするためのセクターごとの学び合い	気候変動教育のネットワーク拡大および主流化
社会教育拠点	現場の状況の共有	現場の状況の共有	相互参照	相互参照	<セクター内での相互参照> 気候変動教育の好事例について、セクター間で相互理解が深まり、実践者の増加及び実践人材の育成が進んでいる。
ビジネスセクター	NPO、ビジネスセクター等：連携による可能性への期待 学校現場に対する理解、意識の変化	NPO、ビジネスセクター等：連携による可能性への期待 学校現場に対する理解、意識の変化	相互参照	相互参照	<セクター間連携> 学校・連携による事例・効果を知り、他セクターの理解者と出会うことにより、連携事例が増加している。
連携プラットフォーム支援体（自治体、温暖化防止センター、他）	さらなるビジネスセクターの巻き込み	さらなるビジネスセクターの巻き込み	相互参照	相互参照	・ビジネスセクター、NPO等：教育現場に対する理解や実践（の支援）により、各セクターの連携が年々進められた教育現場への支援体制が構築されている。

黄…今年の内容 赤…来年度の内容 青…最終的なアウトカム

	課題	<p>令和5年度は、大阪府内を中心に情報収集、関係性構築を行ったため、令和6年度については、他府県の多様な主体との関係構築を目指したい。また、小学校現場での事例については多く情報収集することができたが、中学校、高等学校の情報収集は不十分なため、引き続き関係性の構築およびヒアリングを通じた現状把握を行っていきたい。</p> <p>近畿ESDセンターにおける学びあいプロジェクトに関しては、学校と地域の連携と気候変動教育の2つのテーマがあるが、令和5年度については気候変動教育について参加者に十分に伝えることができなかったが参加者アンケートで寄せられた感想も気候変動教育に関するものが少なかった。</p> <p>こうした反省を踏まえ、来年度は引き続き気候変動教育に関する内容を取り上げていくことに加え、脱炭素実現のための人材育成の必要性や課題、現状についても検討を進めたい。</p> <p>地域フォーラムでは、分野横断的な学びを推進、支援するために、気候変動教育に加えて、国際分野や人権分野など、多様な分野に関する事例を蓄積し情報発信を行いたい。</p>
--	----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(1 1) 気候変動の視点も入れた学びあいプロジェクト、ノウハウの共有と推進に関する方策の検討、報告、全国センターとの連携【仕様書番号5-(5)-①~③、5-(7)】

業務目標	<ul style="list-style-type: none"> ・近畿各地に多様なESD実践者が生まれ、地域ごとに特色のあるESDが実施されている ・学校教育関係者に気候変動教育の可能性ややり方が理解され、導入や実践が複数確認できる 	
実施内容	気候変動の視点も入れた学びあいプロジェクト	
	9/30	<p>＜主催開催＞第1回開催 テーマ「感動のESD実践提案！」</p> <p>【参加者】18名、近畿事務所、ESDセンター（正阿彌、堀、小路、小山）</p> <p>【形態】対面 エル・おおさか504号室（大阪市）</p> <p>【内容】</p> <p>（第一部）講演「ESD 実践から得られた成果と今後」 比叡山中学・高等学校 伊藤由季氏、奈良教育大学 中澤静男氏</p> <p>（第二部）意見交換</p> 
10/14	<p>＜主催開催＞第2回開催 テーマ「ESD の一石二鳥な取り組み方」</p> <p>【参加者】19名、近畿事務所、ESDセンター（具志堅、堀、小路、小山）</p> <p>【形態】対面 エル・おおさか504号室（大阪市）</p> <p>【内容】</p> <p>（第一部）講演 和歌山大学教育学部附属小学校教諭 中谷栄作氏 和歌山県橋本市教育委員会教育長 今田実氏</p> <p>（第二部）意見交換</p> 	

実施内容	<p>10/27</p> <p><主催開催>第3回開催 テーマ「地域が支える学校のESD！仕組みづくりのプロセスを知ろう」 【参加者】 15名、近畿事務所、ESDセンター（具志堅、堀、小路、小山） 【形態】 対面 エル・おおさか504号室（大阪市） 【内容】 (第一部) 講演 気候ネットワーク環境教育事業部長 広瀬和代氏 京都市地球温暖化対策室係長 照沼健史氏 いけだエコスタッフ理事長 庄田佳保里氏 池田市環境政策課主任主事 高井七海氏 (第二部) 意見交換</p>	
	<p>11/18</p> <p><主催開催>第4回開催 テーマ「学校が活用できる教材！みんなで考える活用例」 【参加者】 12名、近畿事務所、ESDセンター（正阿彌、堀、小路、山下） 【形態】 対面 エル・おおさか501号室（大阪市） 【内容】 (第一部) 講演 木津川市まち美化推進課環境保全指導員・京都府地球温暖化防止活動推進員 西澤浩美氏 (第二部) 意見交換</p>	

実施内容	11/25	<p><主催開催>第5回開催 テーマ「振り返って考える、学校と地域をESDでつなぐ課題とは」</p> <p>【参加者】13名、近畿事務所、ESDセンター（正阿彌、寺岡、堀、山下）</p> <p>【形態】対面 エル・おおさか南館72号室（大阪市）</p> <p>【内容】参加者ワークショップ 学校と地域の連携に関する不安や失敗の整理、共有</p> <p>全体ファシリテーター 福知山公立大学 谷口知弘氏</p>
		
実施内容	ノウハウの共有と推進に関する方策の検討、報告、全国センターとの連携	
	5/31	<p><会議参加>第1回ESD活動支援センター（全国・地方）連絡会</p> <p>【参加者】環境省、文部科学省、全国地球温暖化防止活動推進センター、全国センター、環境パートナーシップ会議、他地方環境事務所、他地方センター</p> <p>【形態】対面（地球環境パートナーシッププラザ）＋オンライン</p> <p>【内容】各地方センターにおける今年度事業に関する情報共有</p>
	6/21	<p><会議参加>2023年度第1回ESD・気候変動教育の推進のための作業部会</p> <p>【参加者】全国センター、環境パートナーシップ会議、環境省、全国センター企画運営委員、他地方センター、近畿ESDセンター</p> <p>【形態】対面（地球環境パートナーシッププラザ）</p> <p>【内容】学びあいプロジェクトの気候変動教育可視化マトリクスの作成について</p>
	6/27	<p><会議参加>2023年度 第1回ESD活動支援企画運営委員会</p> <p>【参加者】全国センター、全国センター 企画運営委員</p> <p>【形態】対面（地球環境パートナーシッププラザ）＋オンライン</p> <p>【内容】各地方センターにおける今年度事業に関する情報共有および地域ESD拠点に対して行ったアンケートの結果報告</p> <p>※近畿ESDセンターはオブザーバーとして出席した</p>
	9/13	<p><会議参加>全国ネットワーク団体意見交換会</p> <p>【参加者】全国・地方ESD活動支援センター、その他ESDや気候変動教育関連20団体 近畿ESDセンター</p> <p>【形態】対面 東京ウィメンズプラザ 視聴覚室（東京都）</p> <p>【内容】有識者による話題提供</p> <p>※近畿ESDセンターは第一部～第三部での情報収集および質疑応答におけるファシリテーションおよび記録を行った</p>
	11/15	<p><会議参加>2023年度第2回ESD・気候変動教育の推進のための作業部会</p> <p>【参加者】全国センター、環境パートナーシップ会議、環境省、全国センター企画運営委員、他地方センター、近畿ESDセンター</p> <p>【形態】対面（地球環境パートナーシッププラザ）</p> <p>【内容】学びあいプロジェクトの目標および進捗確認</p>
	12/9	<p><開催>ESD推進ネットワーク全国フォーラム参加</p> <p>【参加者】ESD関連団体、各地方ESDセンター、近畿ESDセンター</p> <p>※会場参加者合計145名</p> <p>【形態】対面（国立オリンピック記念青少年総合センター）＋オンライン</p> <p>【場所】国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）</p> <p>【内容】ESD関連団体による気候変動教育などの取り組みについての議論および報告。近畿ESDセンターは今年度の学びあいプロジェクトについてポスター発表で情報共有を行った</p>

		
	1/24	<p><会議参加>2023年度第2回ESD活動支援センター連絡会 【参加者】 環境省、文部科学省、全国センター、環境パートナーシップ会議、他地方環境事務所、他地方センター 【形態】 対面（地球環境パートナーシッププラザ）＋オンライン 【内容】 各地方センターにおける今年度事業に関する情報共有</p>
事業総括	成果	<p>地域との連携・協力を得てESDを進めている橋本市の事例から、ESDに取り組むことで、学校現場や地域社会が直面しているさまざまな課題に、個々別々に取り組むのではなく、それらのつながり・関係を理解した学びの広がりが見られていくことがわかった。</p> <p>また、京都市や池田市、木津川市では、市全域で学校とNPO等との連携による取組が実現していることから、NPO等民間側が、学校現場におけるカリキュラムの作り方や年間の動きなどを理解することが学校との連携促進に欠かせないことだという認識が深まった。また、セクター間の連携を促進するためには、セクターを超えたコミュニケーションを支援するコーディネーターの必要性が明らかになった。学校と地域の連携についてはぜひ実践したいという感想が見られ、多様なESD実践者が生まれる機運が高まった。</p> <p>ESD推進ネットワーク全国フォーラムでは、他の地域のESD活動支援センターをはじめESD実践者に対し学びあいプロジェクトの報告を行い、多くのフィードバックが得られた。</p>
	課題	<p>学校と地域の連携のためには、NPO等民間団体に向けては、学校現場への理解や児童・学生への接し方（発問）などを理解するための場が必要である。一方、教育関係者に向けては、NPO等民間団体のプログラムのうち、学校のカリキュラムに対応し、かつ実績のあるものとしてどのようなものがあるか、わかりやすい情報媒体が必要である。今後このような場や仕組みづくりと、それを実際に地域で動かしていくコーディネーター養成が必要であると思われる。</p> <p>令和5年度については、学びあいプロジェクトを通して、学校とNPO等との連携について深めたこともあり、気候変動教育についての意欲向上や実践事例の実現は確認できなかった。地域や民間と連携した学校での気候変動教育の基盤となる情報は提供できたが、気候変動教育に対する可能性や具体的な手法について理解されるよう、さらなる情報発信が必要である。</p>

(12) ESD推進ネットワーク地域フォーラムの開催【仕様書番号5-(6)-①】

業務目標	学校内外の教育関係者が目指す教育について共有し、学校と共によりよい学校教育（ESD）の実現を目指す機運を醸成する	
実施内容	2/18	<p><主催開催>ESD推進ネットワーク地域フォーラム 開催</p> <p>【参加者】60名、近畿事務所、近畿ESDセンター（具志堅、堀、小路、小山、山下）</p> <p>【形態】対面 ドーンセンター特別会議室（大阪市）</p> <p>【内容】第1部：2023年度学び合いプロジェクトの報告 登壇者：NPO法人気候ネットワーク 広瀬和代氏 近畿地方ESD活動支援センタースタッフ</p> <p>第2部：「いま」知りたい！学校のESD実践事例 登壇者：一般社団法人地球温暖化防止全国ネット 理事長 高田研氏 豊中市立新田小学校 校長 安家紀子氏 教諭 津寫杏奈氏 堺市立日置荘小学校 校長 稲葉淳郎氏 教諭 谷口恵美氏</p> <p>第3部：「滋賀県立伊香高校断熱ワークショップ」が地域の一大トピックになるまでと、それから 登壇者：ONESLASH株式会社・滋賀県MLGsふるさと活性化大使清水広行氏 エネシフ湖北 桐畑孝佑氏 滋賀県立伊香高等学校 教諭 富山昌彦氏、ほか高校生4名</p> <p>第4部：参加者ネットワーキング</p> <p>【主催】近畿地方ESD活動支援センター、環境省近畿事務所</p> <p>【協力】NPO法人気候ネットワーク、一般社団法人地球温暖化防止全国ネット、エネシフ湖北</p> <p>【後援】大阪府教育委員会</p>
事業総括	成果	教育関係者、企業、NPO・市民団体等、多様な主体をフォーラムに集めることができた。学校と地域が連携して実現したESDの実践事例を報告することで、学校内外の教育関係者と目指すべき教育（ESD）の在り方の一部を共有することができた。参加者ネットワークでは教職員をはじめ多様な教育関係者がつながり合うことができ、今後の連携促進に向けた機運が醸成された。
	課題	各事例の実施主体は学校や民間等多様であったが、取組の分野は環境に偏っていた。環境分野だけでなく、国際や人権などその他の分野もテーマとして取り上げることにより幅広いESDのフォーラムにしていくことを検討したい。



(13) KSP分科会その他事務局が開催する事業の支援・運営、その他の協働事業
 【仕様書番号6-(1), (2)】

業務目標	<ul style="list-style-type: none"> ・環境・社会・経済が統合的に向上する持続可能な地域・経済圏づくりの推進及び地域脱炭素を通じた関西の活性化 ・「関西 SDGsプラットフォーム ローカル SDGs・脱炭素分科会」の活用
実施内容	<p>KSP「ローカルSDGs・脱炭素分科会」</p> <p>5/29</p> <p><主催開催>KSP「ローカルSDGs・脱炭素分科会」キックオフイベント 先達に学ぶ！持続可能な経済・社会・地域の創り方 【参加者】150名（対面73名＋オンライン77名） 【形態】対面 QUINTBRIDGE（大阪市）＋オンライン（Zoomウェビナー） 【内容】講演会3名、トークセッション、ネットワーキング</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
	<p><主催開催>KSPローカルSDGs・脱炭素分科会 第2回イベントの開催 タイトル：最新事例から考える！SDGs×官民連携で地域課題を解決するアイデアとは</p> <p>【参加者】150名（対面86名＋オンライン64名）、近畿事務所、きんき環境館（岡見、寺岡、具志堅、小路、小山、山下（会場参加）堀（オンライン参加）） 【形態】対面（QUINTBRIDGE）＋オンライン 【場所】QUINTBRIDGE（大阪市） 【内容】（開会挨拶）環境省 近畿事務所 （第一部）基調講演・インスピレーショントーク 「SDGs 未来都市 現状と今後の展望」小西 晋一 氏 「SDGs 実践 各地の事例と成果・発展へのポイント」高木 超 氏 ※急きょ欠席のため、後日ご講演映像をYouTubeで限定公開。 「官民連携 実践事例と秘訣」長井 伸晃 氏 （第二部）事例紹介&トークセッション （事例紹介）1 大阪府公民戦略連携デスク 2 奈良県生駒郡三郷町 （トークセッション）小西氏、高木氏、長井氏、大阪府及び三郷町 （第三部）自治体プレゼン&ネットワーキング （プレゼン）1 京都府 亀岡市 2 滋賀県 湖南市 3 大阪府 阪南市 4 大阪府 堺市</p> <p>8/1</p> <p>【主催】環境省近畿事務所 【共催】内閣府 【協働運営】きんき環境館 【協力】近畿経済産業局、近畿財務局</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

実施内容	11/9	<主催開催>KSP「ローカルSDGs・脱炭素分科会」第3回イベント（グリーン社会①） 社会・地域課題をビジネスで解決！～若手社会起業家たちと共に描く未来～ ※（8）参照
	3/12	<主催開催>KSP「ローカルSDGs・脱炭素分科会」第4回イベント（グリーン社会④） 「大学×〇〇」～大学との協働・連携による新しい地域の活性化と課題解決の仕組み～※（8）参照
実施内容	CN関連イベント	
	12/18	<開催>CNイベント「時代に取り残されないために！脱炭素経営に向けた第一歩を知るセミナー」の開催 【参加者】135名（対面47名＋オンライン88名）、近畿事務所、大同生命保険株式会社、きんき環境館 【形態】対面（大同生命大阪本社）＋オンライン 【場所】大同生命大阪本社（大阪市） 【内容】I.最新の政策動向と中小企業に求められること 藤井 紗菜 氏 II.中小企業の脱炭素経営とは 小西 豊樹 氏 III.大阪府の中小企業サポートメニューの紹介 小穴 倫久 氏 IV.無料相談会 【主催】環境省近畿事務所・大同生命保険株式会社 【共催】独立行政法人 中小企業基盤整備機構 近畿本部・大阪府
	1/19	<開催>脱炭素関連インタビュー連載企画① 【参加者】早稲田大学教授、近畿事務所、近畿財務局、近畿経済産業局、きんき環境館 【形態】オンライン 【内容】脱炭素を進めるための地域金融機関の重要性について、顧客との接点がある地域金融機関の強みについて等のインタビュー
	1/19	<開催>脱炭素関連インタビュー連載企画② 【参加者】株式会社ニューラル、近畿事務所、近畿財務局、近畿経済産業局、きんき環境館 【形態】オンライン 【内容】脱炭素に関する地域金融機関の役割について、地域金融機関が海外支部と交流し情報を入れていくべきか等のインタビュー
	1/26	<開催>脱炭素関連インタビュー連載企画③ 【参加者】株式会社 野村資本市場研究所 野村サステナビリティ研究センター、近畿事務所、近畿財務局、近畿経済産業局、きんき環境館 【形態】オンライン 【内容】脱炭素における地域金融機関の重要性について、地域金融機関の経営に脱炭素への取組の有無はどのように影響/行動につながっているのか等のインタビュー
	3/13	<開催>八尾市での脱炭素意見交換会 【参加者】21名、近畿事務所、八尾市環境保全課、きんき環境館（岡見、小山） 【形態】対面（八尾市青少年センター集会室） 【内容】・八尾市における脱炭素関連補助金についての現状共有 ・環境省からの脱炭素及び住宅の省エネに関する情報提供 ・株式会社Yanekaraによる事例紹介 ・住宅関連事業者による意見交換
	3/21	<開催>脱炭素関連インタビュー連載企画④ 【参加者】近畿事務所、きんき環境館（寺岡、小山） 【形態】対面（近畿事務所） 【内容】脱炭素関連インタビュー連載企画の支援業務
実施内容	その他協働事業	
	10/4	<開催>お披露目会＋（第3回） 【参加者】76名（対面13名＋オンライン63名）、近畿事務所、きんき環境館 【形態】対面（近畿事務所）＋オンライン（Webex） 【場所】近畿事務所（大阪市） 【内容】先行地域第3回選定結果に関する総評、先行地域第3回選定自治体による発表、重点対策加速化事業選定自治体による発表、全体Q&A
	3/21	<開催>お披露目会（第4回） 【参加者】46名（対面4名＋オンライン42名）、近畿事務所、きんき環境館（寺

		岡、小山) 【形態】対面（近畿事務所）＋オンライン（Webex） 【内容】先行地域第4回選定結果に関する総評、先行地域第4回選定自治体による発表、全体Q&A
事業総括	成果	KSP「ローカルSDGs・脱炭素分科会」を活用することで、企業、行政、教育機関、NPO・市民団体等の多様な主体を巻き込み、交流を図ることができた。第1回イベントから第3回イベントまでは、共創を目的とした施設であるQUINTBRIDGEを継続して活用することで認知度の向上にもつながった。分科会という形での開催をとることで、継続して参加をする参加者も一定数見られ、交流が深まる要因になったと考えられる。 CNイベントでは、企業や金融機関をターゲットとして情報発信することで、分科会イベント等には出席をされていないような新たな層に情報を届けることができた。脱炭素先行地域のお披露目会においては、自治体間において互いの取組を相互理解することが進んだ。
	課題	交流の促進、先進事例の情報提供等は数多くできたが、イベント等を通してできた連携のきっかけが、その後どのように具体的な取組につながったかについて確認ができていない。令和5年度については、分科会等の仕組みを活用し、取組の認知を広げたところであるが、近畿の各エリアにおいて具体的な協働の取組促進（関西の活性化）につなげるための手法を検討する必要がある。

(別表) 報告書記載事項

○ 全般

事 項	内 容
きんき環境館の開館状況	月間開館日数 237 日
	月間延べ来場者数 165 人
提供サービスの状況	会議スペースの提供 63 回
	図書資料等の提供 回覧のみ受付
	追加収集した図書資料等 6 件

※令和6年3月22日時点

○ EPO

項 目	件 数	備 考
1 相談件数	80	環境に関する一般的な質問から業務についての具体的な相談まで、メール、電話、訪問等を通じた相談案件数
2 WEB アクセス数	301,031	月間閲覧数(きんき環境館HP)
3-1 メルマガ登録者数	3,018	最新登録者数
3-2 メルマガ発行回数	23	
4 機関紙発行部数	-	(発行していない)
5-1 対話の場づくり数	48	EPOが情報収集や合意形成等の目的で参加したセミナー・委員会・協働団体との会議等
5-2 地域の協議会等への出席	3	5-1のうち、自治体や民間が主催する協議会等へ、EPOとして出席した会合数
5-3 EPO主催・共催の対話の場	4	5-1のうち、EPOが主催・共催した会合数
5-4 主催事業参加者数	93	5-3の会合の総参加者数

※令和6年2月29日時点

○ ESDセンター

項 目	件 数	備 考
1 相談件数	45	環境に関する一般的な質問から業務についての具体的な相談まで、メール、電話、訪問等を通じた相談案件数
2 WEB アクセス数	4,704	月間閲覧数(近畿ESDセンターHP)
3-1 メルマガ登録者数	-	最新登録者数
3-2 メルマガ発行回数	-	
4 機関紙発行部数	-	(発行していない)
5-1 対話の場づくり数	68	ESDセンターが情報収集や学び合い等の目的で参加したセミナー・委員会・協働団体との会議等
5-2 地域の協議会等への出席	11	5-1のうち、自治体や民間が主催する協議会等へ、ESDセンターとして出席した会合数
5-3 ESDセンター主催・共催の対話の場	5	5-1のうち、ESDセンターが主催・共催した会合数
5-4 主催事業参加者数	77	5-3の会合の総参加者数

※令和6年2月29日時点

4 業務実施計画書

令和5年度

きんき環境館・近畿地方ESD活動支援センター 業務計画

地域コーディネーターをつなぐコミュニケーター きんき環境館

～地域循環共生圏と地域脱炭素に寄与するために～



2023年 8月
NPO法人 エコネット近畿

1

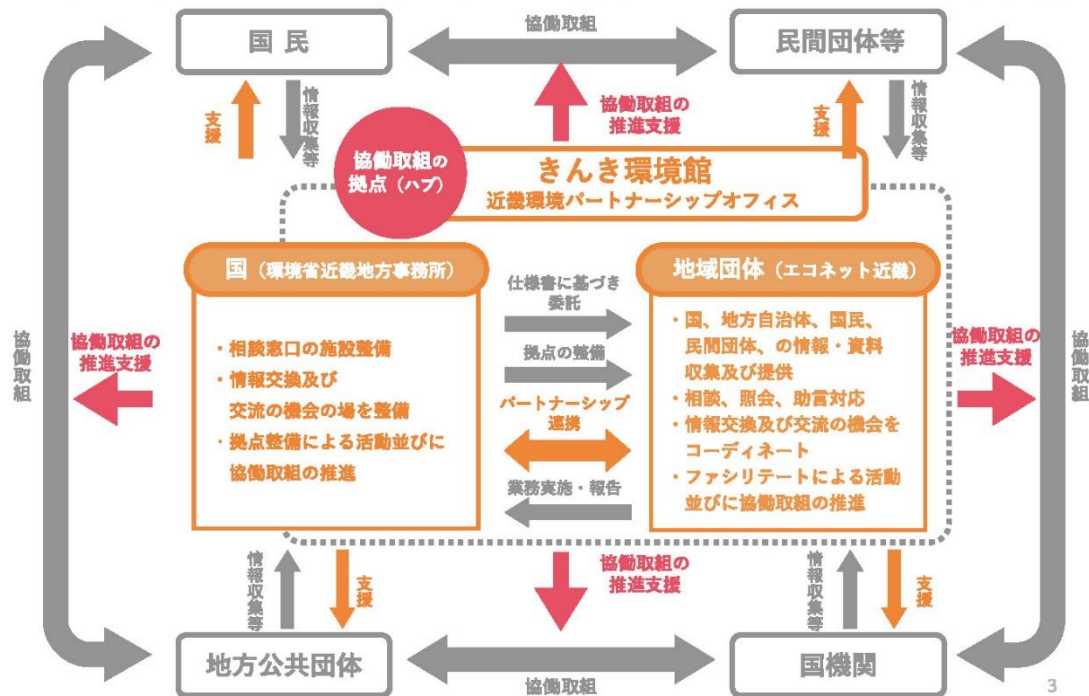
きんき環境館・ESDセンター 運営体制

 <p>正阿彌 崇子 総括・事務局長</p>	<p>統括 ＜ネットワーク・強いテーマ＞ 環境NPO/NGO・国際協力・平和・防災・環境国際法・地域ヒアリング・団体支援・動物園・博物館 ＜教育関係・対象＞ ESD、プログラム開発、WS、講演 対象：未就学児～お年寄り、外国人私立高校での教員歴14年</p>	 <p>堀 孝弘 チーフコーディネーター</p>	<p>チーフコーディネーター/ESDセンター担当 ＜ネットワーク・強いテーマ＞ 環境NPO/NGO・行政・廃棄物・大学・環境基本計画、SCR報告書 ＜教育関係・対象＞ 環境教育、プログラム開発、教材開発、WS、講演 対象：大学、成人、行政、企業</p>
 <p>寺岡 剛太 マネージャー</p>	<p>マネージャー/統括補佐 ＜ネットワーク・強いテーマ＞ 中間支援・ソーシャルビジネス・ファシリテート・団体支援 ＜教育関係・対象＞ コーディネーター論、地域事例紹介 対象：大学</p>	 <p>小路 楓 コーディネーター</p>	<p>コーディネーター/ESDセンター担当 ＜ネットワーク・強いテーマ＞ EPOネットワーク（元EPO北海道スタッフ） ESD、河川生態系、高校の総合探究、ファシリテート、グラフィックレコード ＜教育関係・対象＞ ESD、WS 対象：若者、若手職員</p>
 <p>岡見 厚志 マネージャー</p>	<p>マネージャー/地域循環共生圏担当 ＜ネットワーク・強いテーマ＞ 地域コーディネーター・ボランティアコーディネーター、ファシリテート、リユースびん、天神祭りごみゼロ ＜教育関係・対象＞ プログラム実施、WS 対象：専門学校、大阪府立高校</p>	 <p>小山 絵美子 広報担当スタッフ</p>	<p>広報担当スタッフ ＜ネットワーク・強いテーマ＞ 動画配信、SNS、HP、広報、フリースクール ＜教育関係・対象＞ 数学、物理、化学 対象：大学、フリースクール</p>
 <p>具志堅 葉子 チーフコーディネーター</p>	<p>チーフコーディネーター/地域循環共生圏担当 ＜ネットワーク・強いテーマ＞ ピオトープ、自然環境保全、バイオマス、データ調査、自然農、各地の取組み事例、里山、林業 ＜教育関係・対象＞ プログラム実施、WS 対象：未就学児～お年寄り、障がい者</p>	 <p>山下 比呂 スタッフ</p>	<p>総務スタッフ ＜ネットワーク・強いテーマ＞ 助成金、資金調達、相談業務、団体支援、記録、会計（NPO会計）、財務諸表、イベントのオンライン配信・ハイブリッド配信</p>

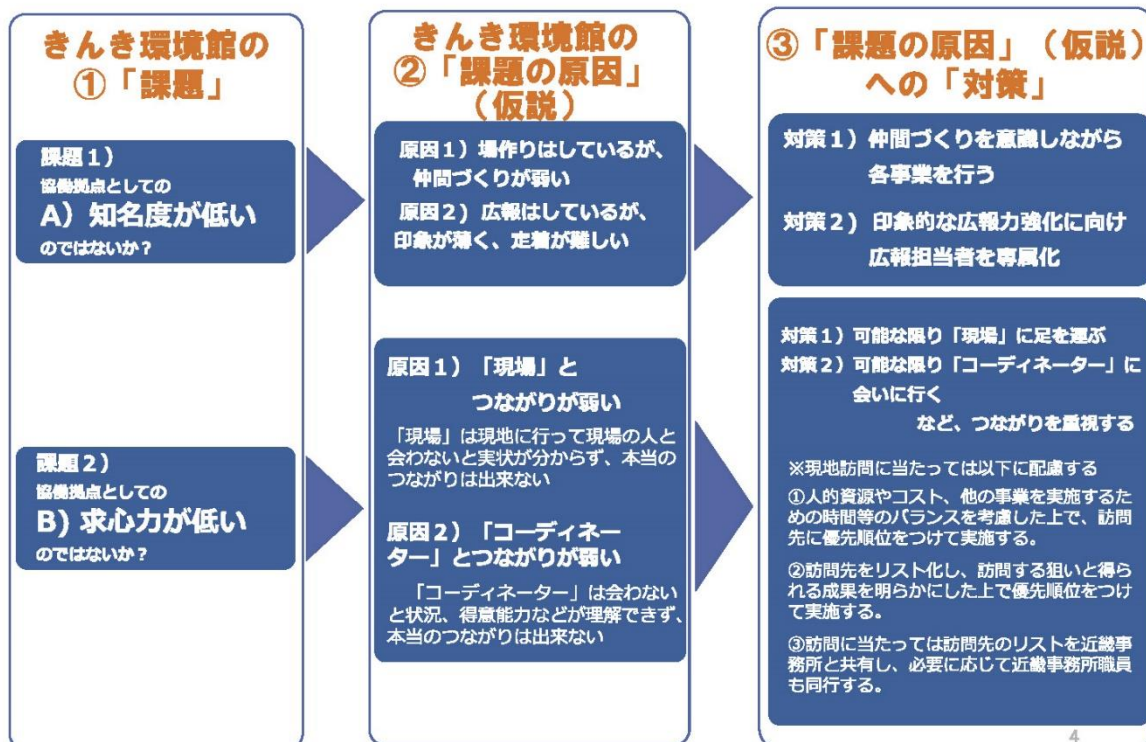
2

協働取組の拠点（ハブ）としての役割

環境パートナーシップオフィスは、2003年に施行された環境教育等促進法（公布時は環境保全活動・環境教育推進法）に基づき全国に8か所設置された「環境保全の意欲の増進の拠点」であり、さらに2011年には、環境を軸とした成長を進める上で、環境保全活動や行政・企業・民間団体等の協働がますます重要になっている（「環境教育等促進法への改正の概要」より）ことから「協働取組の拠点」としての役割も付加された。



きんき環境館の①課題 → ②課題の原因（仮説） → ③原因への対策

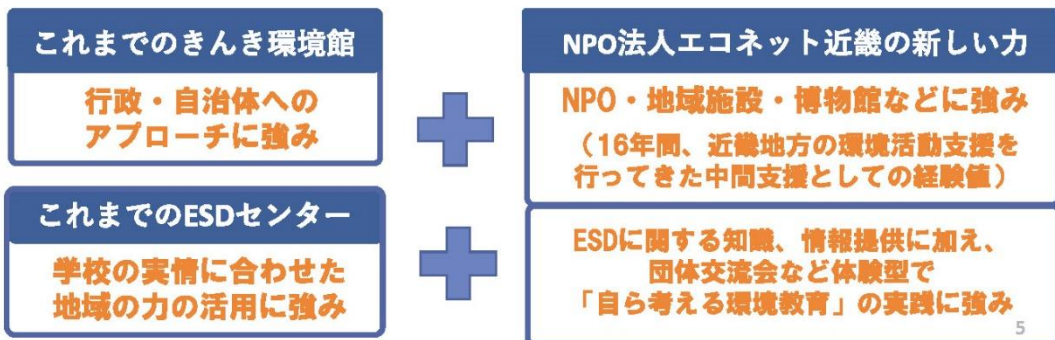


3年間で達成しようとする目標

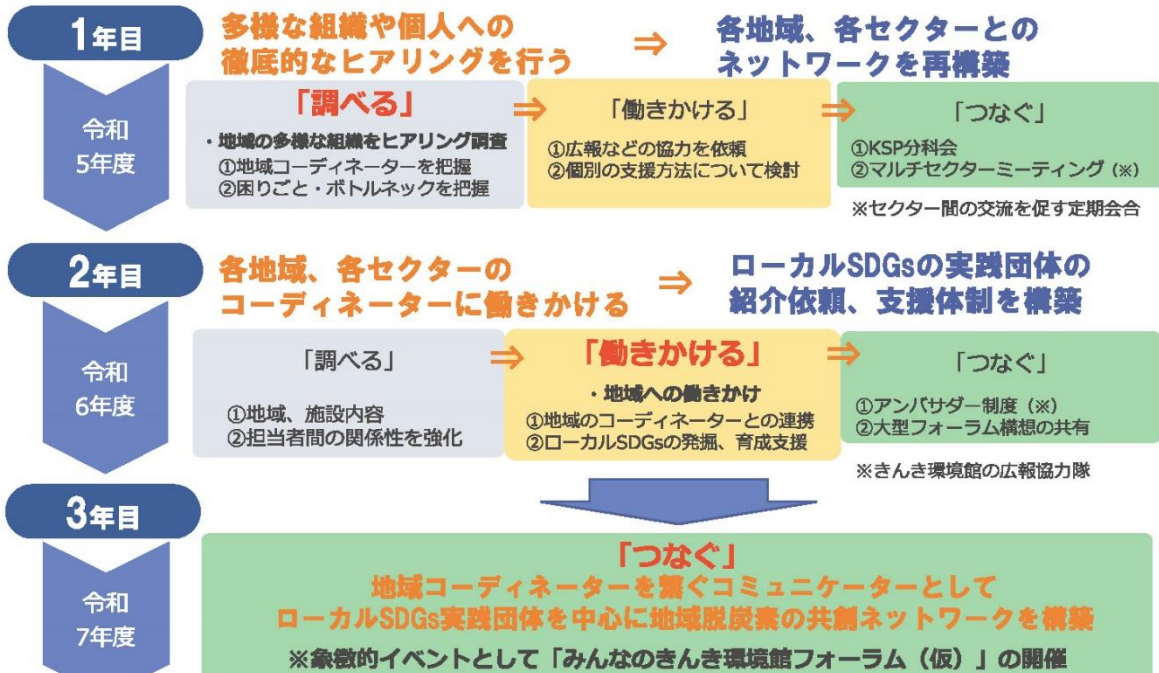
地域コーディネーター機能をつなぐコミュニケーターになり、
地域循環共生圏と地域脱炭素に寄与する



「新しい力」を取り入れた「新しい」きんき環境館・ESDセンター



3年間の成長ステップ（イメージ）



4年目 (令和8年度) 以降

近畿エリアにおける地域循環共生圏と脱炭素ドミノを牽引する⁶

ネットワークの「広がり」と「深まり」の進め方のイメージ

関係団体との「ネットワークのつながり方」や「つながりの深さ」は業務の内容や関わった時間により、また担当者とスタッフの関係性などによりさまざまになりますが、その「関係性」や「深まり」を「レベル」という形で「見える化」し、関係団体のネットワークを①量的な「広がり」と②質的な「深まり」に集約し、スタッフ間で情報を共有することで現場とコーディネーターに関する情報を一元に管理し、有効に活用します。具体的には「1件でも多くの方とネットワークを広げ、関わった方、団体と少しでも深い関係性のレベルを形成していく」イメージです。

ネットワークレベル (Lv)

Lv1

イベントなどを通じて開拓、交流し現場/コーディネーターをリスト化している

Lv2

メールマガジンなどを通じて定期的な情報交換を行っている

Lv3

定期的なコミュニケーションなどを通じて担当者間の人間関係が形成されている

例) 初期の伴走団体、卒業団体、地域の顔となっているコーディネーターなど

Lv4

伴走支援、団体取材などを通じて組織の内容、得意分野などについて共有している

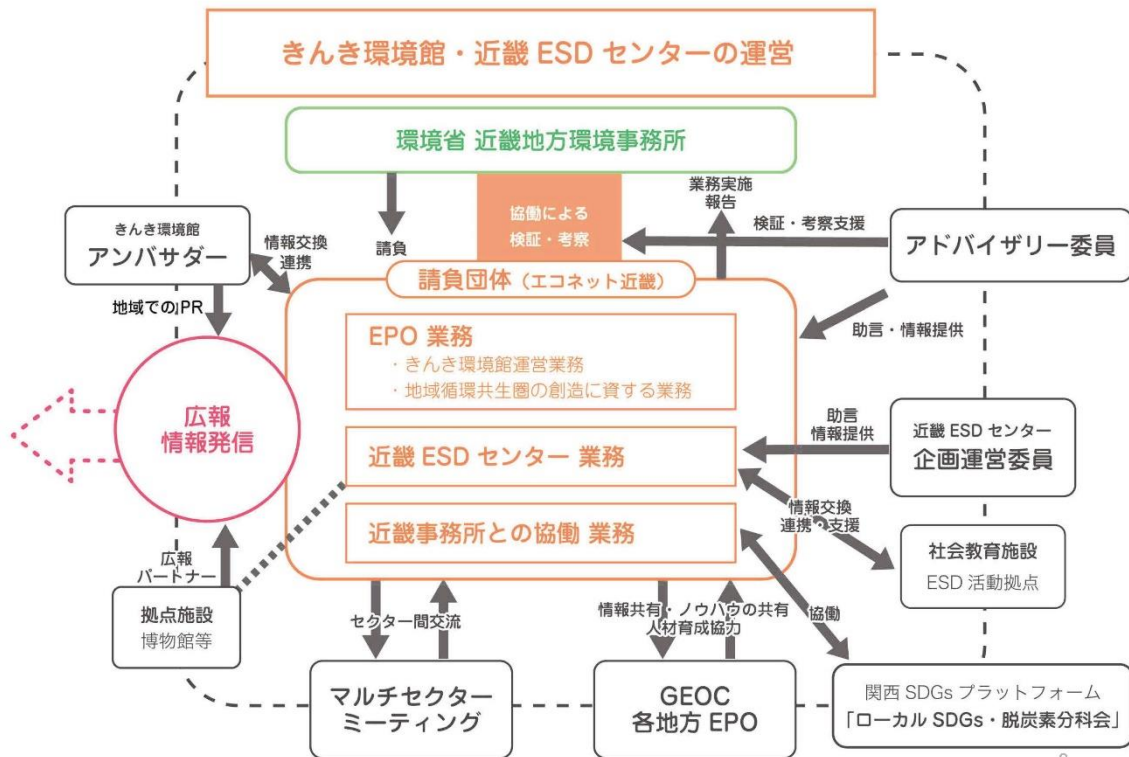
例) 成長期、自走期の伴走団体、など

Lv5

「みんなのきんき環境館フォーラム(仮)」などの協働開催を通じて密な関係性が出来ている

7

ステークホルダーを含む運営体制図 (イメージ)



8

共通業務	きんき環境館アドバイザー委員会 近畿ESDセンター企画運営委員会の設置・開催等	仕様書番号 4-(2) 仕様書番号 5-(2)
-------------	--------------------------------------------	----------------------------------

業務目標	専門的な知見から計画や評価にアドバイスをいただき、きんき環境館・ESDセンター共に成長していける状態を作る。(委員の可能な範囲で個別のイベントにもアドバイス等のご参画とご協力をお願いする場合があります。また、各委員が実施されるイベントなどについても、情報提供と可能な範囲での連携ができれば幸いです) 多様な委員の方々に参画いただくことで、知名度や求心力の向上を図る。
-------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

業務内容	<p>アドバイザー委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋田 大介氏 (株式会社イマゴト 代表取締役) ・浅利 美鈴氏 (京都大学大学院地球環境学 准教授) ・田口 真太郎氏 (成安造形大学 未来社会デザイン共創機構 研究員 助教) ・永井 美佳氏 (社会福祉法人大阪ボランティア協会 常務理事/事務局長) ・新川 達郎氏 (同志社大学 名誉教授) ・森 伊知郎氏 (Future Creation Lab. オブリガード 代表) <p>ESD企画運営委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尾上 忠大氏 (公益財団法人吉野川紀の川源流物語 事務局長) ・上村 有里氏 (NPO法人とよなかESDネットワーク 事務局長) ・来田 博美氏 (公益財団法人淡海環境保全財団 キャリアアドバイザー) ・庄田 佳保里氏 (NPO法人いけだエコスタッフ 理事長) ・新堀 春輔氏 (公財京都市環境保全活動推進協会 環境教育推進室長) ・中澤 静男氏 (奈良教育大学 ESD・SDGsセンター センター長) ・中島 恵理氏 (同志社大学 教授) ・長友 恒人氏 (奈良教育大学 名誉教授、日本ESD学会 初代会長) ・平井 研氏 ((株)総合水研究所) <p style="text-align: right;">※お名前は50音順 9</p>
-------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

共通業務	<ul style="list-style-type: none"> ・Webサイトなどを活用した情報発信、PR ・ESD活動に関する域内情報の収集・発信及びESD活動に関する域内外への情報提供等 	仕様書番号 4-(3)-① 5-(3)
-------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------

業務目標	<p>課題：きんき環境館、近畿ESDセンターともに知名度が低い</p> <p>目標：きんき環境館/近畿ESDセンターのホームページで近畿圏の情報を積極的に発信することで各施設の認知度の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HP, YouTube, Facebook, メールマガジンなど情報発信媒体の違いを生かしたアプローチを行い、目的別に利用者に情報が届けられるようにしていく。 ・専門用語をなるべく使わないなど、表現を工夫し、環境に関心が薄い層へ普及啓発を行う。 ・新たなネットワークを開拓すべく、身近な話題提供として自然体験や暮らしに関する情報などの英語での発信を検討する。
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

業務内容	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="background-color: #4CAF50; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">収集</div> <ul style="list-style-type: none"> ・拠点/博物館等への訪問・配架物 ・関係省や他団体のメルマガ/ホームページ ・他団体・企業の開催するイベントへの参加 </div> <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="background-color: #4CAF50; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">考察</div> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の種類 ・ ニーズのある層 ・期日 ・ 発信媒体 </div> <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="background-color: #4CAF50; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">編集</div> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の整頓 ・ 説明/補足の追加 ・発信媒体にあった形式への変更 </div> <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="background-color: #4CAF50; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">発信</div> <ul style="list-style-type: none"> ・きんき環境館HP ・ 近畿ESDセンターHP ・YouTube ・ Facebook ・ メールマガジン </div>	<div style="background-color: #4CAF50; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">成果指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・各ウェブサイトのアクセス数及び閲覧数 ・メルマガへの投稿依頼数 ・Facebookの投稿に対するいいね、共有の数 ・YouTube閲覧数 <div style="background-color: #4CAF50; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">成果獲得に向けた具体的な工夫</div> <ul style="list-style-type: none"> ・情報収集作業をルーティン化することにより情報の鮮度を落とさない情報発信を行う。 ・他団体主催のイベントなどへ積極的参加を行い、きんき環境館を通じた広報の方法の認知度を向上させる。 ・発信情報の内容によっては、左記の発信媒体以外のメディア発信も検討する ・きんき環境館のメルマガへの情報投稿可否の確認を電話にて行うことにより、情報ごとの緊急性、広報先の希望などを把握する。 ・広報媒体の特徴と利用層の把握を行う。 <p style="text-align: right;">10</p>
-------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>共通業務</p>	<p>・相談対応 ・ESD活動に関する相談・支援窓口</p> <p style="text-align: right;">仕様書番号 4-(3)-② 5-(4)</p>
<p>業務目標</p>	<p>課題：誰もが気軽に相談できる場所になる 目標：・丁寧な相談対応により、認知度と信頼度を上げる ・チームでの専門性の高い相談対応により、実践につながる、地域脱炭素やローカルSDGs達成に向けて取り組む主体の活動の促進 ・相談者との関係性を築くことで、取組み情報やニーズ・シーズが入りやすい状態にする ※ただし、全体の業務ボリュームと事業優先度のバランスに鑑み、相談対応に一定の強弱をつける場合がある</p>
<p>業務内容</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p style="background-color: #f4a460; padding: 5px; border-radius: 5px;">関係性を築く相談業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>チームでの相談業務の把握</u> 活動のステップ、多様な主体ニーズに応じた相談対応。週1回以上の相談業務共有。多様なスタッフの強みの掛け合わせ。 ・ <u>データ等でのカルテの集約の検討</u> 相談内容をカルテとしてデータベース化することを検討する。 ・ <u>担当制の導入による丁寧な対応</u> 情報を共有後、担当を決め、相談者が相談しやすい状況と他事業の情報提供との連携を試みる。また、適宜フォローアップを行う ・ <u>スタッフのスキルアップ</u> 環境政策やESD、環境教育の歴史やトレンドについて、適宜内部での研修を行い、相談業務に活かす。 </div> <div style="width: 48%;"> <p style="background-color: #4a90e2; color: white; padding: 5px; border-radius: 5px;">成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相談対応件数 ・ 相談対応の活動への反映と効果事例数 <p style="background-color: #90c17e; padding: 5px; border-radius: 5px; text-align: center;">成果獲得に向けた工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な主体から寄せられる相談を通して、各主体のニーズを把握する。 ・ ニーズに対応した、具体性があり適切な助言、提案を実施する。 ・ 近畿地方環境事務所にも適宜情報を共有し、協働での相談対応を行う <p style="text-align: right;">11</p> </div> </div>
<p>共通業務</p>	<p>対話の場作り等</p> <p style="text-align: right;">仕様書番号 4-(3)-③ 5-(2)</p>
<p>業務目標</p>	<p>課題：環境保全や教育に携わる多様な方から話を伺う機会を増やす 目標：地域ニーズと課題を把握することで、効果的な支援方法を検討していく</p>
<p>業務内容</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p style="background-color: #f4a460; padding: 5px; border-radius: 5px;">マルチセクターミーティング（4回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各回10名程度の多方向分野の関係者をお招きし、地域や業界の課題やアイデアを得る対話の場を開催する。 ・ 各人に業界の課題や取組み、トレンドを聞くと共に、きんき環境館に求めるものや、課題解決に必要な支援について、議論する。それらを元に効果的な支援方法や各分野とのネットワーク構築につなげる <ol style="list-style-type: none"> ① 里海川・公園管理、林業、漁業、建設会社等を予定 ※EPO業務と連携 ② 農業、生協、リユース、給食、小売・流通業等を予定 ※EPO業務と連携 ③ 学校教育関係者、社会教育関係者、フリースクールを予定 ※ESD業務と連携 ④ 多様なESD関係者、有識者、ビジネスセクターを予定 ※ESD業務と連携 </div> <div style="width: 48%;"> <p style="background-color: #4a90e2; color: white; padding: 5px; border-radius: 5px;">成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各業界等の課題やニーズ、最新の取組み、特徴をまとめる ・ 各業界等の関係者との関係性を深める（関係性の深化） <p style="background-color: #90c17e; padding: 5px; border-radius: 5px; text-align: center;">成果獲得に向けた工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他事業と連携させ、来てくださった関係者を他の事業での協働につなげることで、関係性を深める ・ 各業界について、ミーティングだけでなく、文献等も含めて、事前調査や事後の調査を入れることで、ニーズや課題の客観的把握に努める <p style="text-align: right;">12</p> </div> </div>

共通業務	対話の場作り等	仕様書番号 4-(3)-② 5-(2)
-------------	---------	---------------------------

業務目標	<p>課題：住民の政策コミュニケーション能力を上げるためのノウハウやスキルを持つ中間支援機関が少ない</p> <p>目標：地域循環共生圏に向けた市民の政策コミュニケーション力向上を目指し、コミュニケーションの場を作るのノウハウやスキルを整理する</p>
-------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

業務内容	政策コミュニケーションの場（2回）	成果指標
	<p>住民自治向上と、地域のコーディネーター機能を持つ人・組織・施設の支援を見据え、政策コミュニケーションをテーマにした対話の場を開催する。</p> <p>①気候市民会議の多様な開催を考えるWS 日程：9月頃 主催：大阪大学COデザインセンター きんき環境館 共催：公共圏における科学技術・教育研究拠点（STiPS）、大阪大学ELSIセンター</p> <p>②地域脱炭素等をテーマとした行政・議員・市民との対話の会 日程：11月頃 パートナー：社会福祉法人大阪ボランティア協会、あどぼを紡ぐ研究会 ※テーマや場の持ち方については、知見やノウハウを持つ団体との協働で実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> 参加者の政策コミュニケーション手法の獲得、今後のコミュニケーション意欲向上 政策コミュニケーションにおける必要な支援の整理
		成果獲得に向けた工夫
		<ul style="list-style-type: none"> きんき環境館が単独で開催するのではなく、ノウハウやスキルを持った団体と協働で開催することで、大学や中間支援機関が地域づくりをすることを見据えた事業を実施する。
		13

共通業務	<ul style="list-style-type: none"> 全国事業に関わる業務/全国センターとの連携協力の推進等 地方EPOネットワークとの情報交換会 施設の維持・管理 	仕様書番号 4-(3)-③/5-(7) 4-(3)-④ 4-(3)-⑤ 5-(7)
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------

業務目標	<p>課題：EPOの全国でのネットワークを活動に活かす</p> <p>目標：全国ネットワークでの情報交換で得た知見を活かし、地域で活動に取り組む団体や市民への支援を効果的に行っていく</p>
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------

業務内容	業務項目	主な取り組み
	全国事業に関わる業務/地方EPOネットワークとの情報交換会	<p>【きんき環境館】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地方EPO間の連携強化と情報共有を目的とした全国EPO連絡会議等、業務に係る連絡調整の目的で開催される会合に出席し、情報収集を行う。 GEOCが開催する持続可能な地域づくりのための情報交換会へ参加し、近畿地方の知見を共有しながら、EPOネットワークへの協力を行う <p>【ESDセンター】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国・地方ESDセンター連絡会、その他全国センターが実施する会議に出席し、情報交換を行う。 全国フォーラムに参加するとともに、必要に応じて登壇者との調整等に協力する
	施設の維持・管理	<ul style="list-style-type: none"> 他団体の発行する機関誌等の配布スペースの確保、関連図書の貸出等を行う 相談対応がスムーズに進むような相談場所の提供を行う
	<p>工夫：</p> <ul style="list-style-type: none"> GEOC、ESD全国センター、地方EPOは仲間ととらえ、定期的にメール、電話、オンライン、対面などを通して、色々な情報交換を行う。 相談業務等を近畿圏以外のEPOにつなぐ等の小さな事業の協働を試みる。 きんき環境館を施設としても、来館しやすい、相談しやすい場所にする。 	
		14

業務目標 伴走支援団体がゴールに近づくよう支援をおこなう
「きんき環境館」が近畿圏のパートナーシップオフィスであり、いつでも「支援を得られる」頼れる存在であることを認識してもらう（きんき環境館（EPO）の認知度向上）

業務内容	エネシフ湖北（環境整備団体）伴走支援 ・エネシフ湖北には、企業、NPO、学識者、コンサルタント、専門家（再生可能エネルギー、生物多様性）が揃っており、コアメンバーはパートナーシップ促進に関する手法も心得ている。 ・きんき環境館は、エネシフ湖北主催イベント等に参加し、現在見えていないステークホルダーの存在やパートナーシップの構築度合いを測り、その都度必要な伴走支援を検討する。	全国プラットフォーム活動との連携 ・ヒアリング結果と支援計画等を年度当初及び適時 GEOC に提出 ・活動団体採択にかかわる意見照会に対応し、制度設計に助言 ・GEOC が主催するキックオフミーティング、作業部会、共有会、共生圏PF 事業形成会議、成果共有会及びネットワーキングイベントに参加 ・環境整備団体が他の地方EPOの知見を吸収して、ネットワーキングし、よりよい情報交換や相互支援を行えるよう支援する
	エネシフ湖北（環境整備団体）の中間共有会の開催 ・エネシフ湖北がやめスマ（福岡県八女市のPF事業環境整備団体）と連携して開催する全国エネルギーサミットの後方支援を行う。	
	エネシフ湖北ステークホルダーミーティング後方支援 ・エネシフ湖北のステークホルダー間の共通理解が進む機会となるよう、地域特性や地域課題に配慮して支援する。	
	事業化支援団体の情報共有および卒業団体のフォローアップ調査 ・箕川未来協議会及び多賀町の打ち合わせ等へ参加し、環境整備団体へのアドバイスに活かす（年3回程度） ・卒業団体の訪問ヒアリングを1件実施	
	15	

環境整備団体	エネシフ湖北 （滋賀県長浜市） 多様な地域特性を生かした“ながはまローカルSDGs”の実現 ○脱炭素やローカルSDGsの実現に向かうことで、産業・社会構造を変革するイノベーションを起こし、人口減少による地域社会の活力低下や産業の衰退、魅力ある雇用の減少等の様々な地域課題を解決すること。 ○2050年に向けて激変する世界でも適用する能力を持ち、いきいきと生きていける次世代の人材を育成するとともに、そうした人材が長浜市で活躍できる雇用・職業やフィールドが多くある地域を目指す。 ○自然・文化・歴史に溢れ、豊かな暮らしが持続し続ける社会をつくる。	伴走支援
--------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------

事業化支援団体	箕川未来協議会 （滋賀県東近江市箕川町） 箕川町再興～人間らしい感動を味わえる里 	後方支援 16
	多賀町 （滋賀県多賀町大滝地域） 大滝の地域環境に育まれた、人と人とのつながり、人と自然とのつながりを未来に！ 	後方支援 16

卒業団体	フォローアップ ・公益財団法人 東近江三方よし基金（滋賀県東近江市） ・亀岡市（京都府亀岡市） ・公益財団法人 八木町農業公社（京都府南丹市） ・サソテナやお（大阪府八尾市高安地区） ・公益財団法人 地球環境戦略研究機関（IGES）兵庫東北摂地域 ・奈良市（奈良県奈良市） ・天理市環境連絡協議会（奈良県天理市） ・みなべ・田辺地域世界農業遺産推進協議会（和歌山県田辺市、日高郡みなべ町） ・那智勝浦町（和歌山県東牟婁郡）	16
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----

EPO 業務	地域循環共生圏構築に向けた身近な自然資本の活用に関する 意見交換会の開催 仕様書番号 4-(4)-⑦
業務 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・多様なパートナーシップでの身近な自然資本の活用による地域づくりを進めている、ステークホルダー間の交流の場をつくる。 ・各ステークホルダーが、先進事例紹介や意見交換により新しい情報を得ることで、身近な自然資本の活用に関する取り組みが持続可能となるきっかけとする。
業務 内容	<p><u>意見交換会の開催（2回）</u></p> <p>多様なパートナーシップによる地域づくりの手法や利点を数多く聞き、参加者自身の地域づくりに活かすきっかけとする。また、近畿圏内で身近な自然資本を活かした地域づくりを進めている人のネットワークを構築する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>第1回「多様なパートナーシップによる地域づくりの事例集 対話編」</p> <p>【登壇案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国事例紹介等（Nacs-J）ネイチャーポジティブタスクフォース室 高川氏 ・自然共生試行サイト（自然維持管理NPO&企業） ・食と農文化を守っている企業（和菓子屋、醸造業など&農家） ・身近な自然体験の場を創出している自治体（自治体&森林公園の指定管理NPO） <p>【参加者】 生物多様性保全活動に取り組みたいと考えている個人、NPQ、行政、企業</p> <p>【開催地・定員案】 Quint Bridge（大阪市京橋）・30名</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>第2回「多様なパートナーシップによる地域づくりの事例集 現地編」</p> <p>【登壇案】 現地見学、ディスカッション（現地は第1回のアンケートにより決定）</p> <p>【参加者】 生物多様性保全活動に取り組みたいと考えている個人、NPQ、行政、企業</p> <p>【開催地・定員案】 第1回のアンケートにより決定・20名 17</p> </div>

EPO 業務	地域からのグリーン社会の実現に向けたステークホルダー連携促進事業 仕様書番号 4-(4)-⑧				
業務 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域におけるグリーン社会の実現に向けた取り組みを進めている、ステークホルダー間の交流の場をつくる。 ・各ステークホルダーが、先進事例紹介や意見交換により新しい情報を得ることで、グリーン社会の実現に関する取り組みが発展するきっかけとする。 				
業務 内容	<p><u>マッチング等の実施（4回）</u></p> <p>目標達成の観点から、様々なステークホルダーの集まる機会を定期的に設け、生態系の創出を試みる。その中で、地域におけるパートナーシップが促進され、様々な情報（ヒト・モノ・カネ等）が交換されて、持続可能なグリーン社会の実現に向けた事業の創出にも繋がるような場とする。</p> <p>様々なセクターを対象に各回でテーマを設けて開催し、グリーン社会の実現が参加者自身の事業や生活に大きく関わると認識いただくことで、地域における積極的かつ具体的な連携や行動を促す。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%; padding: 5px; vertical-align: top;"> <p>①若手＋社会人 起業スタートアップ ～グリーン社会の実現～</p> <p>■参加者想定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪を変える100人会議 ・若手社会起業家 ・起業に興味ある学生等 <p>■開催場所・時期・定員案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Quint Bridge（大阪市京橋） ・10月、70名程度 </td> <td style="width: 25%; padding: 5px; vertical-align: top;"> <p>②企業・市民による 脱炭素の取組み ～グリーン社会の実現～</p> <p>■参加者想定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脱炭素に取り組む企業、市民 ・企業・市民参加を促進したい自治体 <p>■開催場所・時期・定員案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Quint Bridge（大阪市京橋） ・11月、70名程度 </td> <td style="width: 25%; padding: 5px; vertical-align: top;"> <p>③OECMと経済循環 ～グリーン社会の実現～</p> <p>■参加者想定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OECM維持管理団体 ・中間支援組織 ・地方自治体 ・地域金融機関 <p>■開催場所・時期・定員案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館（姫路市） ・12月、30名 </td> <td style="width: 25%; padding: 5px; vertical-align: top;"> <p>④多様な主体マッチング ～グリーン社会の実現～</p> <p>■参加者想定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回までのイベント参加者 <p>■ネットワーキング案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域や課題、テーマ等に分かれてネットワーキング <p>■開催場所・時期・定員案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Quint Bridge（大阪市京橋） ・1月、70名程度 <p style="text-align: right;">18</p> </td> </tr> </table>	<p>①若手＋社会人 起業スタートアップ ～グリーン社会の実現～</p> <p>■参加者想定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪を変える100人会議 ・若手社会起業家 ・起業に興味ある学生等 <p>■開催場所・時期・定員案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Quint Bridge（大阪市京橋） ・10月、70名程度 	<p>②企業・市民による 脱炭素の取組み ～グリーン社会の実現～</p> <p>■参加者想定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脱炭素に取り組む企業、市民 ・企業・市民参加を促進したい自治体 <p>■開催場所・時期・定員案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Quint Bridge（大阪市京橋） ・11月、70名程度 	<p>③OECMと経済循環 ～グリーン社会の実現～</p> <p>■参加者想定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OECM維持管理団体 ・中間支援組織 ・地方自治体 ・地域金融機関 <p>■開催場所・時期・定員案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館（姫路市） ・12月、30名 	<p>④多様な主体マッチング ～グリーン社会の実現～</p> <p>■参加者想定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回までのイベント参加者 <p>■ネットワーキング案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域や課題、テーマ等に分かれてネットワーキング <p>■開催場所・時期・定員案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Quint Bridge（大阪市京橋） ・1月、70名程度 <p style="text-align: right;">18</p>
<p>①若手＋社会人 起業スタートアップ ～グリーン社会の実現～</p> <p>■参加者想定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪を変える100人会議 ・若手社会起業家 ・起業に興味ある学生等 <p>■開催場所・時期・定員案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Quint Bridge（大阪市京橋） ・10月、70名程度 	<p>②企業・市民による 脱炭素の取組み ～グリーン社会の実現～</p> <p>■参加者想定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脱炭素に取り組む企業、市民 ・企業・市民参加を促進したい自治体 <p>■開催場所・時期・定員案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Quint Bridge（大阪市京橋） ・11月、70名程度 	<p>③OECMと経済循環 ～グリーン社会の実現～</p> <p>■参加者想定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OECM維持管理団体 ・中間支援組織 ・地方自治体 ・地域金融機関 <p>■開催場所・時期・定員案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館（姫路市） ・12月、30名 	<p>④多様な主体マッチング ～グリーン社会の実現～</p> <p>■参加者想定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回までのイベント参加者 <p>■ネットワーキング案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域や課題、テーマ等に分かれてネットワーキング <p>■開催場所・時期・定員案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Quint Bridge（大阪市京橋） ・1月、70名程度 <p style="text-align: right;">18</p>		

業務目標
 課題：地域循環共生圏を広げるにあたり、ニーズのある地域や担い手とコーディネート機能（支援機能）を有する組織、人、施設のまとまった情報がない
 目標：担い手と支援者の情報収集と関係性の構築（人財データベースの構築）

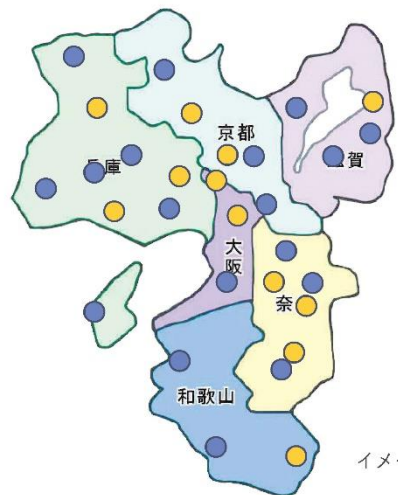
業務内容
 対面を通しての関係性の構築

- ・地域行脚を通して、地域のニーズの把握やコーディネート機能を有する人や組織の把握をする。
- ・マルチセクターミーティングを通して、業界関係者との関係性を構築し、その方たちからも、上記の情報を得る。
- ・セミナーやKSP分科会等を通して、新たな企業や組織、人との関係性を構築する。
- ・相談業務を通して、小さな課題解決から、大きな課題解決まで、様々なニーズにこたえることで、信頼を獲得する。
- ・これらを通して得られた人材の情報の蓄積を元に「人財データベース」を構築し、今後の地域支援に効果的に活用する。

※3年間続けることで、地域の面的な把握に努める

成果指標

業務全体を通して、200以上の新たな人や組織との関係性を構築する。



19 イメージ図

課題：ESD実践者の定着・増加と質の高いESDの実践を目指した、学校と地域が協力する仕組みの拡大

問題：ESD実践者が定着・増加しない

← この状況を変える



原因の追究

学校	NPO/企業/個人	教育委員会 ・自治体等	
<ul style="list-style-type: none"> ・教師が忙殺され、ESDに関する情報を得にくく、中々、実践を行えない ・地域とつながりがあり、外と連携する方法や予算がよくわからない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ESDへの取り組み方が学校と大きく異なる ・学校の状況がよくわからず、つながりが少ない ・継続的な学校との連携が難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ESDがあまり知られておらず、理解度が低い ・学校外との社会課題とESDの繋がりに関する理解不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・セクター間の状況を知る機会がなく連携が難しい ・学校と学校外部の連携において前提のすり合わせ等の機会が少なく、お互いに負担がかかってしまう ・多様なセクターを巻き込んだ地域のESDの取り組み事例が少ない

学校を中心に地域のセクターが持続可能な形でつながる仕組みづくりの支援が必要 20

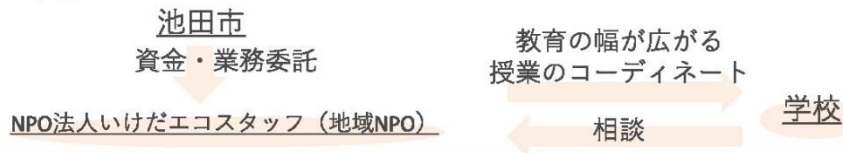
相談・支援窓口

- ・域内外のESDの情報発信
- ・ESDについて気軽に相談できる窓口
- ・地域行脚による地域のニーズ把握、取り組みの支援

学びあいプロジェクト

- ・学校と地域の教育関係者との連携事例の共有について関係者による学びあい
- ・地域の多様なセクターのESDに対する理解の促進
- ・連携が持続可能になるよう、企業や自治体（特に教育担当課以外）にも金銭的支援や仕組みづくりを働きかける

池田市の連携事例
環境基本計画、総合計画に学校と地域との連携を明記することで連携の仕組みを確立している



地域フォーラム

- ・教育関係者だけでなく企業や自治体など、様々なESD関係者がつながる場作り
- ・新たな関係者の巻き込み
- ・「これからのESD」を考える場を創出

ESD実践者の定着・増加と質の高いESDの実践を目指した、学校と地域が協力する仕組みの拡大

目業標務

- ・近畿各地に多様なESD実践者が生まれ、地域ごとに特色のあるESDが実施されている
- ・学校教育関係者に気候変動教育の可能性ややり方が理解され、導入や実践が複数確認できる

業務内容

<概要>
1年目テーマ **ESDを地域をあげて推進する仕組みを知る**

おもな対象者 自治体教員関係者、政策担当者、学校教員、社会教育関係者、大学生、ESD拠点、その他ESD実践者等

<紹介事例(案)>

- ・いけだエコスタッフ×池田市の小学校
- ・NPO法人気候ネットワーク×京都市の小学校
- ・地域活動拠点の事例

実践事例や実現プロセス、NPO等の関わりなどを参加者とともに学び合う。
また、このような仕組みを今後実現しようとする地域の課題や要望についても拾い上げていく。

<その他>
気候変動を切り口としたESDを推進するに当たってノウハウ等を共有する会合（作業部会）、ESD推進ネットワーク全国フォーラム、ESD活動支援センター連絡会に協力および出席する

3年目 ESD人材活躍の場の拡大

2年目 仕組みづくりの働きかけ

1年目 ESD推進の仕組みを学ぶ

第5回
まとめのワークショップ(11月)

第4回
教材紹介(11月)

第3回
事例紹介(10月)

第2回
事例紹介(10月)

第1回
昨年度の成果確認(9月)

対話

学校外との連携のヒントを得て視野が広がる

ESD 業務	2030学びあいプロジェクト	仕様書番号 5-(5)-①
-------------------	----------------	------------------

目業 標務	近畿各地に多様なESD実践者が生まれ、地域ごとに特色のあるESDが実施されている。学校教育関係者等に気候変動教育の可能性ややり方が理解され、導入や実践が複数確認できる
------------------	-------------------------------------------------------------------------------------

※プロジェクトイメージ) ESDネットワーク×気候変動教育の進捗の可視化マトリクス様式

プロジェクト・センター名 学校教育関係者を対象とした外部連携のための学びあい / 近畿地方ESD活動支援センター

黄：今年度実施 赤：来年度以降実施

	Focus 1 学習者の変容	Focus 2 教育者・実践者・ 組織の変容	Focus 3 ネットワークの 変容	Focus 4 仕組みの変容	Focus 5 社会的インパクト (めざしたい状態)
学 校	気候変動をはじめ環境問題に対する理解増進	連携例による学びあい ・教員 ・教委 ・社会教育 ・地域ESD拠点 ・NPO 期待：仕組みの確立による組織的対応 NPOと学校のネットワーク形成連携 期待：教育委員会による社会教育拠点との連携の仕組みの確立 連携調査 特にNPOにおける、学校現場のニーズ把握、連携の余地の模索			持続可能な人づくりのためのベースを整え、連携が行われることでより質の高いESD・気候変動教育が近畿各地で行われる
社会教育拠点					
ビジネス セクター	課題： ビジネスセクターの巻き込み	視野の広がりによる意識の変化			
連携プラットフォーム 支援体（自治体、温暖化防止センター、他）		教育現場のニーズ把握、ネットワーク形成			

23

ESD 業務	ESD推進ネットワーク地域フォーラムの開催	仕様書番号 5-(6)-①
-------------------	-----------------------	------------------

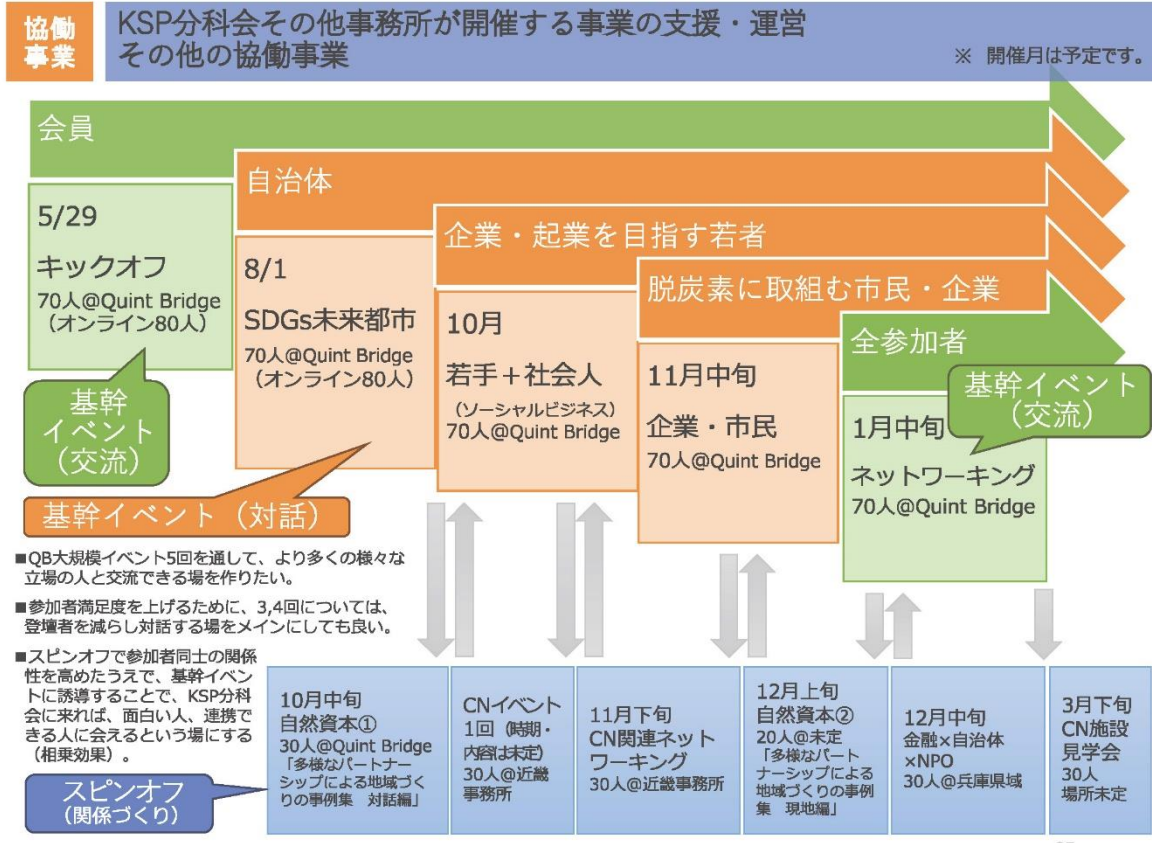
業 務 目 標	学校内外の教育関係者が目指す教育について共有し、学校と共によりよい学校教育（ESD）の実現を目指す機運を醸成する
----------------------------	----------------------------------------------------------

<概要>
 学校教育の現場や意識と、地域の教育関係者の教育観やこれまでの実践について情報共有を行い、これから必要だと考えるESD、環境教育とその仕組みについて対話を行う
 また、場づくりによって近畿圏の多様なESD実践者におけるネットワークの形成を行う

<想定される参加者>
 学校教育関係者、社会教育関係者、有識者、その他ESD実践者（志す人を含む）

業
務
内
容

24



協働事業 KSP分科会その他事務所が開催する事業の支援・運営
その他の協働事業 仕様書番号 6-(1),(2)

業務目標

- ・環境・社会・経済が統合的に向上する持続可能な地域・経済圏づくりの推進及び地域脱炭素を通じた関西の活性化
- ・「関西SDGsプラットフォーム ローカルSDGs・脱炭素分科会」の活用

業務内容

(1) 関西SDGsプラットフォーム『ローカルSDGs・脱炭素分科会』その他事務所が開催する事業の支援・運営

【実施済】 5/29キックオフ先達に学ぶ！持続可能な経済・社会・地域の創り方
【実施済】 8/1 第2回最新事例から考える！SDGs×公民連携で地域課題を解決するアイデアとは

- CNイベント：自治体・事業者などを対象に、脱炭素にかかるセミナーと施設見学をセットで実施。参加者の脱炭素への意欲を向上させる。
- CN関連ネットワーキング：自治体・事業者などを対象に、脱炭素にかかるネットワーキングを実施する。
- CNマッチング：自治体・事業者などを対象に、自治体ニーズと事業者シーズのマッチングを実施する。

(2) その他の協働事業

- ・脱炭素先行地域情報交流会 2回 (9月ごろ、1月)